

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
適切な教育課程を編成し、PDCAサイクルに基づく実践管理と組織的な教育実践により、児童にとって行きたくなる楽しい学校、保護者・地域から信頼される学校をつくる。		○児童の学習規律・生活規律が向上し、基礎学力の底上げなど落ち着いた集団・児童個々の成長が醸成できた。 △「児童にも保護者にも見える客観的学力」を身に付けさせる必要がある。	(1) 学力の充実・向上を最大の教育課題として位置付けた総合的で具体的な方策の推進 (2) 安心と安定のある学級経営と不登校の未然防止 (3) PTA等と連携した安心・安全の充実
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	学力の充実・向上を最大の教育課題として位置付けた総合的で具体的な方策を推進する。 (1) 児童が発言をつないで意見を交流し考えを深め合う授業 (2) 繰り返しのドリル学習や個別補習、個に応じた指導などによる基礎学力の完全定着 (3) 自律的な高い学習規律をもった学習集団の育成 (4) 家庭との連携による家庭学習の質・量の向上	教職員の研修活動の充実と常に一体化して取り組む。 (1) 授業力を高める校内研修と、授業づくり・学習集団育成の実践を、指導教諭を中核にして活性化・日常化 (2) 中学校との授業づくりを通じた連携と研修 (3) 家庭と連携した家庭学習習慣の強化 (4) 授業づくりを補完するドリル・補習等の組織的推進 (5) 意欲・判断等を高め質の高い学習へと方向付ける評価 (6) 京都式少人数教育による少人数学級を最大限に活用し、個々の学習課題や習熟の程度等に応じた丁寧な指導 上記を具体的に推進するため、学期1回、授業づくり、家庭学習の強化、学力定着をセットで取り組む月間を設け、教師・児童・家庭それぞれが集中的に実施(スリーアップ作戦)	○授業づくり、家庭学習習慣定着、学力定着を一体とした取組が機能して、学習の規律や態度とともに学習の質が一層向上し、学習の楽しさを感じて取り組める子が一層増えた。結果として、基礎学力の底上げ・定着ができた。 ○家庭学習に自ら取り組める児童が増え、質・量ともに向上した。 △さらに児童の学習態度と授業の質を高め、「思考力・表現力、学ぶ意欲も含めた質の高い学力」と共に「諸テストの平均点の向上などの目に見える学力」の充実を図る。 △中学校と連携して授業や取組の改善を進め、義務教育9年間を見通した学力の向上と、学習態度・学力定着の取組の好ましい接続を一層追求する必要がある。
生徒指導	学力を身に付ける基盤として、すべての児童に居場所がある学校・学級をつくる。 (1) 居心地のよい安心と安定の学級経営の充実 (2) 異年齢を中心とした人間関係の充実 (3) 不登校の未然防止	(1) 児童を鍛え高める集会活動・異年齢集団活動、学級活動の実施 (2) 「あいさつ」「人や場に応じた言葉遣い」を中心に、心地よい生活規律と人間関係を高める指導の実施 (3) 学習・生活意欲のわく美しく整備された環境づくり (4) 京都式少人数教育による少人数学級を機能させ、加配教員を中心に学年・学級を安定化 (5) 早期対応と継続指導を重視し、問題行動や不登校を起こさせない生徒指導・教育相談体制の確立	○多くの児童が学習や価値あることに夢中になって意欲的に取り組み、学校全体に肯定感・安定感が定着した。 ○高学年のリーダー性発揮のもと、豊かなふれ合いや心の成長がはぐくまれ、全校の一体感が一層広がった。 ○気持ちよく大きな声で挨拶をすることが広がりつつあり、保護者・地域からも一定の評価を得た。 ○整理整頓や正しい言葉遣いが改善されてきている。 ○年間を通して大きな問題事象、不登校が0で推移した。 △「豊かな心」について児童の内面まで届き定着する指導力量を全教職員が身に付け、すべての学級で肯定的・安定的な学級経営が機能するようにする必要がある。
健康(体育)・安全	元気で規則正しい生活ができる児童を育成する。 (1) 健康で自己管理のできる体づくりを進める。 (2) 基本的な生活習慣の定着を図る。 (3) 学校内外の事故0を目指す。	(1) 学級経営と連動して、全員で励まし合い鍛え合う体づくりの取組の実施 (2) 高学年を中心として校外の体育的行事への積極的参加 (3) 計画的・重点的な保健指導・食育指導と共に、家庭と連携した生活改善の取組を実施 (4) 交通安全の指導徹底と共に、PTA、峰小校区安全ボランティアの会との連携を重視	○市小学校駅伝競走大会等での3位入賞、体づくりへの意欲的な取組態度の向上など、目に見える効果が上がった。 ○自転車ヘルメット着用が100%近くなるなど取組が進展し、大きな事故なく1年が終了しようとしている。 △食を含む基本的な生活習慣改善については、一層家庭と連携して粘り強く取り組む必要がある。

特別支援教育	<p>(1) 通常の学級において特別な教育的ニーズのある児童に対する適切な支援を進める。</p> <p>(2) 特別支援学級と通級指導教室の教育活動を充実し、校内における支援センターとして機能させる。</p>	<p>(1) きめ細かな学級経営により、支援し合う学習集団の育成と一人一人の課題に応じた指導支援を実施</p> <p>(2) 毎週1回を基本とした実態把握と指導計画の策定</p> <p>(3) 特別支援学級担当による通常学級の支援、スクールサポーターの活用</p> <p>(4) 通級指導教室担当者を中心とした実態把握と通常学級担任への具体的支援の実施</p>	<p>○通常学級のきめ細かな学級経営が機能し、教育上特別な配慮や指導の必要がある児童が安定的に力を伸ばした。</p> <p>○特別支援学級・通級指導教室の指導が充実し、当該学級児童の発達が促進された。</p> <p>○年間を通して保護者と有意義な教育相談が実施できた。</p> <p>△個別の指導計画を一層活用し、一層の成長を支援する具体的な取組に結び付ける必要がある。</p>
研修(資質向上の取組)	<p>(1) 「学力の充実・向上」と一体化した研修により、すべての教員の指導力を高める。</p> <p>(2) 結果として授業の質を向上させる。</p>	<p>(1) 指導教諭を教員の指導力を高める要として日常的な指導・助言と研修に活用</p> <p>(2) 全員で学習を創り合う学習集団の育成を実践的に研修</p> <p>(3) 国語科を中心に教材分析や指導方法、授業の改善についての研修を日常的に行い、毎日の授業の質を向上</p> <p>(4) 上記(1)～(3)を具体的に機能させるため、スリーアップ作戦(教育課程・学習指導の項を参照)で、授業づくりを中心にした全体研修・自己研修を集中的・日常的に実施</p>	<p>○指導教諭を中心とした授業づくり等の校内研究や自己研修・グループ研修が日常化・活性化し、教員の指導力向上につながった。</p> <p>○結果として授業の質が向上し、教員・児童ともに授業を大切にする学校風土が育ってきた。</p> <p>△すべての教員がさらに授業力を高め、目に見える学力の充実・向上へつなげていかなければならない。</p>
開かれた学校づくり	<p>(1) 学校の情報を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。</p> <p>(2) 学校改善に、保護者・地域の声を活かす。</p> <p>(3) 外部の力を活用し、学校の教育活動の質を向上させる。</p>	<p>(1) 定期的な授業・行事参観、日常的な家庭訪問、学級懇談会などの実施</p> <p>(2) 各種たより、学級通信等による教育活動や情報の積極的発信</p> <p>(3) 保護者・児童への評価アンケートを行い学校改善に活用</p> <p>(4) 学校評議員との連携、学校関係者評価により学校改善を推進</p> <p>(5) 地域の人材、学校支援地域本部事業の活用</p>	<p>○学力の充実・向上等の学校の取組、読書活動推進等のPTAの取組などについて、様々な機会を得て府内・全国に広くその内容や成果を発信することができた。</p> <p>○学校だより等による学校方針の発信、学級通信の積極的発行により、保護者との連携が一層進んだ。</p> <p>○PTA人材や学校支援地域本部事業の活用により、特色ある教育活動を実施することができた。</p> <p>△「目に見える学力の充実・向上」について、取組過程とその結果について更なる具体的な発信が必要である。</p> <p>△学校評議員、学校外部評価委員、民生児童委員等との連携を質・量ともに高める必要がある。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>(1) さらに児童の学習態度と授業の質を高め、「思考力・表現力や学ぶ意欲も含めた質の高い学力」と共に「諸テストの平均点の向上などの目に見える学力」の充実を図る。</p> <p>(2) 学力の充実・向上や生徒指導等の教育活動について、中学校と連携した研究と実践を充実させる。</p> <p>(3) 児童の内面まで「豊かな心」を定着させるための指導を、家庭と連携して充実させる。</p> <p>(4) 学校の積極的な情報発信のもと、保護者、PTA、地域、学校評議員等との連絡・連携を一層強化し、教育活動の質の向上につなげる。</p>		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立吉原小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
①よく学び、自分で考えて行動できる児童を育てる。 ②みんなを大切にし、思いやりのある心を児童に育てる。 ③心も体も健康で、最後までやり抜く児童を育てる。		○国語科の研究をとおして、児童の表現力を高めるための授業改善の取組が広がり、教師の実践意欲が高まった。 ○生徒指導の焦点化した取組により時間励行・集中して話を聞く力が付いてきた。 △表現する場や人との関わりにおいて、自分で考えて行動できる児童を育てる。(伝える力・書く力・判断する力を付ける。)	・学校生活の様々な場で、自分の考えや思いを「伝える力」を付ける。 ・目的に応じた「書く力」を付ける。 ・望ましい集団活動を通して児童の規範意識を高める。 ・児童の心身の健康に努め、学校を休まない児童を育てる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	重点研究「国語科」を中心に、学校教育全体の中で ① 表現力を豊かにする。 ② コミュニケーション能力を高める。 ③ 主体的に学習し、やり切る力を付ける。	① 一人年2回の研究授業を国語科と国語科以外の教科で行い、国語科の中で付けた力がどう他教科につながったか検証する。 ② 「伝える力」を付ける為に ・授業の中での全員発言を目指す。 ・根拠や理由を挙げて発表させる。 ・教材文や詩の音読・暗唱をする。(音読カードの利用) ③ 「書く力」を付ける為に ・発達段階に応じた「一人学び」を取り入れる。 ・書く機会の多用を図る。・ノートを取り方の決まり ・辞書の活用・ノート展示を行う。 ④ P T A と連携した家庭学習・親子読書の取組を進める。	○研究授業を通して、児童の主体性が育ち全員参加の授業づくりができるようになった。 ○学校生活の中で語尾までしっかりと話せる児童が増えた。 ○書く量の具体的目安を示すことでまとめる力が付いた。 ○ノート展示をしたことで、丁寧なノートが多くなった。 △場に合った丁寧な言葉遣いができるようにする。 △基礎基本の徹底とその内容の統一が必要である。
生徒指導	① 行動を興し、やり切る児童を育てる。 ・人間関係の構築を図る。 ・規範意識の向上を図る。 ② 高い人権感覚を身に付けた児童を育てる。	① 1年間を通した挨拶運動を児童会活動と共に行う。 ② 1学期(出会いを大切に・仲間づくり) 2学期(心をつなげよう) 3学期(余すことなくやり切って次の学年へ進もう)を目標にした更に具体的な取組を進める。 ③ 音楽会・講話など豊かな感性を育てる機会を増やす。 ④ 人権意識の向上を図る。(毎学期の人権旬間・人権アンケートとその活用・府教委人権学習資料集の活用)	○年を通した朝の挨拶運動により学校の玄関で挨拶の声が響くようになった。地域からも挨拶をよくするようになったという声を耳にする。 ○生徒指導部と児童会活動が連動した創意工夫ある取組により規範意識が向上した。 △集団の中や大きな集団に行ったときに、流されない児童を育てる。

健康（体育）・安全	心身の健康を守ることの大切さを理解し実践できる児童を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ① 家庭と連携して基本的な生活習慣の確立を図る。（毎学期及び長期休業中の生活点検表・家庭学習頑張り週間） ② 年間を通した体力づくりを行う。（朝マラソン・縄跳び） ③ 健康に気を付ける児童を育て結果として欠席日数を減少させる。（保健指導・学級懇談会や保健だよりを通じた家庭への啓発・欠席統計（日数・理由）のグラフ化） 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣の点検活動により、家庭学習の習慣は向上したが、就寝時刻に課題を残す。 ○欠席状況を家庭に知らせたり、懇談会で話題にしたことにより欠席日数が減少してきた。 △病気に負けない健康な体づくりを一層進める。 △安全を意識した登下校の仕方を強化する。
特別支援教育	障害のある児童のニーズに応じ、支援と指導方法の改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ① 特別支援学級児童の頑張りを知らせる場の設定と通常学級との交流（開級式・朝会発表・学年交流） ② 特別支援学級の指導の充実を図る。（個別の指導計画の作成・基礎学力と社会性を身に付けさせる指導・2回の研究授業） ③ 通常通学級に在籍する障害のある児童の保護者への教育相談活動の充実を図る。（定例化） 	<ul style="list-style-type: none"> ○全校児童の特別支援学級児童への温かい理解が感じられる。 ○教育相談活動を通して保護者と連携し成果があった児童がいる。さらに、教育相談活動の定例化が進んだ。 △発達検査をもとにした就学指導を継続してきたが、保護者の理解が得られにくい側面がある。
教職員の研修	教職員の資質能力・授業力・学級経営力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ① 年間研修計画をもとにした組織的研修を行う。 ② 理論研修・実技研修を充実させる。（人権教育・特別支援教育・体育・音楽・図工）。 ③ 配慮児童への支援の在り方についての事例研修を講師を招聘して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修により若手教員の指導力や児童理解が向上して学級経営の安定につながった。 ○人権感覚を研ぎ澄ます気運が向上した。 △研修で学んできたことを伝達して学び合う場を確実に行う。
開かれた学校づくり	保護者・地域と連携した安心・安全で開かれた学校づくりをする。	<p>保護者や地域関係機関との連携と丁寧な情報発信を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校公開・参観授業 ② 学校だより・学級通信・懇談会での学校からの発信 ③ 民生児童委員・学校評議員の参観と懇談 ④ 見守り隊との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業参観や学校行事への出席率が高く、この機会を利用して、学校の取組や評価を丁寧に保護者に説明できた。 △学校支援ボランティアや地域人材の活用をさらに進める。 △定期的にホームページの更新をする。
次年度に向けた改善の方向性	<p>人権教育を大きな柱として、人権尊重を基礎にした環境づくりと学校づくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）互いの良さを認め合える学級づくりや学校行事を行う。 （2）児童及び教職員の人権意識の高揚を図る。 （3）基礎学力の充実を図る。 （4）場に応じた正しい言葉遣い（挨拶も含めた）ができる児童を育てる。 （5）心身の健康を維持することの大切さを理解し実践できる児童を家庭と連携して育てる。 <p>地域の教育力を活用し、地域と連携した教育活動を進める。</p>		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立五箇小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 「学力の向上」を最重点課題とし全教育課程の中で『いつでも楽しい学校』を目指した取組を進める。</p> <p>2 3つの達成目標「やさしく伝え合う」「いきいきやりきる」「はげまし助け合う」を課題とし、PDCAのサイクル実践を進める。</p>		<p>1 全校的に落ち着いた学習態度で授業ができるようになった。更に心の安定を図り意欲的に授業に参加させる。</p> <p>2 府小研研究協力校として全校的な取組ができた。次年度は国語科を重点研究として研究の充実を図る。</p> <p>3 学力診断テストなどを活用した学力向上の取組を進めることができた。更に授業改善を進めていく。</p> <p>4 三つの達成目標は児童も意識できるようになった。</p>	<p>1 学力の充実と向上 学習規律や家庭学習習慣を確立し、魅力ある授業により授業改善を進め、基礎基本の徹底を図る。</p> <p>2 心の教育の推進 学級経営の充実を図る中で、好ましい人間関係の育成や心の教育の充実を図る。</p> <p>3 開かれた学校 保護者・地域と連携した取り組みを進め、積極的に情報を発信していく。</p>
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	<p>ア学力の向上を図る学習環境の充実を進める。</p> <p>イ診断テスト等を基に改善を進める。</p> <p>ウ特設時間を設け補充学習に取り組む。</p>	<p>ア授業改善を推進するために、全学年で国語科の授業研究会を実施して指導力を高める。</p> <p>イ言語力を高めるために音読を大切に授業をする。</p> <p>ウ家庭学習を充実するために、学習計画表の取組を進める。</p> <p>エ診断テスト結果の分析を生かし、課題単元の指導を充実する。</p> <p>オ学校支援ボランティアを生かした体制で指導を進める。</p>	<p>○全学年で研究授業を実施し、授業規律と学習集団や教材解釈について研修が深められ、日々の授業に生かす事ができた。</p> <p>○学習計画表で家庭と連携し、課題が改善した児童もあった。</p> <p>○低学年も意欲的に学習会に参加する児童の姿が見られた。</p> <p>△常に伝え合う場面を大切にし、言語力の向上を目指す。</p> <p>△個別指導等、配慮児童に対しての指導研究を進める。</p>
生徒指導	<p>ア「心の教育」の充実に向けた生徒指導の推進を図る。</p> <p>イ不登校の未然防止と解決を図る。</p>	<p>ア生徒指導部会を定例化し、2週毎に具体的目標を設定して、全校が常に課題を共有した指導を進めていく。</p> <p>イ登校渋り児童への取組を充実させるために、保護者や関係機関との連携を更に進めていく。</p> <p>ウ定期的に保護者との懇談を計画し常に連携を深めていく。</p>	<p>○継続的に学校規律を守る取組を進めた結果、委員会の放送によって、全校の動きがスムーズな動きになってきた。</p> <p>○保護者と連携し、指導を一致させた取組が進められた。</p> <p>△更に全職員が支援の必要な児童の理解を深め、個別指導の充実を進める。</p>
健康（体育）・安全	<p>ア健康安全学習を進める中で健康に関する認識を高め、実践力の向上を図る。</p> <p>イ児童が安全な生活を営む、正しい判断力と実践力を育てる。</p>	<p>ア保健計画を基に、保健学習、保健指導、食育について、資料をもとにした指導を進める。</p> <p>イ安全計画を基に指導を進め、特に登下校の安全について正しく判断し行動できる力を育成する。</p> <p>ウ家庭と連携し児童の生活改善や安全の取組を進め、特に自転車の交通安全指導に努力していく。</p>	<p>○各種指導資料・たよりをもとに時宜に応じた指導ができた。</p> <p>○定期的に生活点検を実施し、児童・保護者の意識を向上できた。</p> <p>△登下校等日常活動の中で、安全について理解し行動する力の育成を更に目指す。</p> <p>△自転車のヘルメット着帽等の啓発を更に進めていく。</p>

特別支援教育	ア障害及び発達の違いや配慮を要する児童について発達を支援する。 イ関係諸機関と連携し指導の充実に努める。	ア実態交流をもとに指導課題を明らかにし、全職員が関わり指導していく体制を作っていく。 イアセスメント票を作成し支援計画を具体化の中で、個に応じた適切な指導を進めていく。 ウ関係諸機関や保護者と連携し、学習課題や生活における課題について明らかにした指導を進める。	○特に配慮の必要な児童の保護者とは定期的に懇談を実施し、家庭・学校での具体的な指導について方針を持たせた。 ○児童のアセスメント票の取組ができ、継続した指導の課題について全職員で共通理解し、指導に生かす事ができた。 △個と場面に合わせたより良い指導の在り方についての研修を更に進めていく。 △更に保護者と連携し日常的に連携を深めていく。
豊かな心の育成	ア一人一人を大切にする教育活動の充実に目指す。 イ身近な問題について考える児童の育成を目指す。	ア学級経営の充実に向けて学年に応じた話し合い活動や係り活動を工夫し、好ましい人間関係の育成を目指していく。 イ道徳の時間の指導を充実させるために、資料の教材研究を進め、授業で活用して指導の充実に目指す。 ウ身近な問題について気づく人権教育を推進するために、終わりの会等の話し合い活動を大切にしたい取組を進める。	○職員会議で各学級の実態交流を毎回行い、指導交流をする中で、統一した指導を進める事ができた。 ○道徳教育に係る授業参観を偶数学年で実施し、道徳資料を活用した授業公開ができた。 △児童会の継続的な取組を仕組んだり、学級経営の中に日常的に人権意識を高める指導を取り入れていく。
開かれた学校づくり	アPTAとの連携を密にした取組を進める イ学校評価を活用し、PTA・地域・関係機関等との連携を深め、一層の学校改善に努める。	アPTAへ年度初めに年間の授業参観日や行事の日程を説明し、各行事へ積極的な参加を呼びかける。 イ学校だよりを校区の全戸に配布し理解と協力を呼びかける。 ウ行事毎にPTAにアンケートを実施し、結果を公開する中で取組に対する理解を得たり次の実践に生かす。 エ区長会・公民館・老人会・民生児童委員等地域関係機関と連携し活動する。	○運動会や学習発表会をPTAや地域と連携して取り組み、地域やPTAからも学校の取組について、肯定的な評価を受ける事ができた。 ○行事毎にアンケートを実施し、結果を次の取組に生かした。 ○地域老人会との連携を更に深める事ができ、児童も自然な交流ができている。 △地域の参加が得られる魅力ある教育活動を構想していく。
次年度に向けた改善の方向性	<p>本年度は「いつでも楽しい学校」になることを目標として、年間を通じて「いつでも楽しい学校」を評価の基準としてきた。来年度もより実態に合わせた見直しをする中で、「3つの達成目標」を再設定し、教育活動の充実に目指していく。</p> <p>そのために、下記の内容を中心に、より具体的な取組を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇教職員の意欲を大切にし協同意識を高め、児童が生き生きと活動する学校をつくる。 ◇国語の授業研究を通して言語力を向上し、基礎学力の充実に向上を進めていく。 ◇日常的に道徳教育を大切にし、様々な活動場面で豊かな心の育成を進めていく。 ◇特別支援学級の新設にあわせた理解教育の充実に進めていく。 ◇全ての教育活動を進める中で保護者との連携を大切にしたい取組を進めていく。 ◇関係諸機関と更に連携し、教育活動の充実に図る。 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立新山小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 学力の充実・向上を図り、学習することが楽しいと感じる児童を育成する。 2 自らの内面が豊かであるとともに、他者との関係が豊かな児童を育成する。 3 自律と協働の組織理念を共有し、信頼される学校づくりを推進する。		○外国語活動実践研究校として、英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、英語活動の授業研究を進め、年間指導計画を整備することができた。 ○学力の充実・向上と個性や能力の伸長を図り、学習することが楽しいと感じる児童を育成するため、教育活動の工夫・改善を進めることができた。 △自らの課題を解決する実践力を育成するため、自己判断や自己決定を促す指導を推進する。	1 言語活動を充実させる授業を工夫し、学力の充実・向上を図る。 2 子どもが安心して学べる学級経営を進める。 3 教育的ニーズに応じた特別支援教育を進める。 4 子どもと教職員、子ども相互の心のふれあいを大切に、良好な人間関係の育成に努める。 5 授業改善のベースとなる授業研究と英語活動の推進に係る課題対応研究をバランスよく進める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	○学習意欲を高める魅力ある学習指導を行い、学習内容を確実に定着させる。	○基礎学力診断テストなどを活用して学習状況を把握し、学習内容を定着させるドリル学習や補充学習を行う。 ○教材研究に時間をかけ、指導目標と学習のめあてを明確にする。 ○根拠を示して説明する、意見とその根拠が整合しているか考えながら聞く、納得できる意見を取り入れるなどの学習方法を繰り返し指導する。 ○家庭学習の習慣を確立するため、家庭学習の手引きを活用する。	○学習意欲を高める学習指導を工夫したことにより、児童アンケートでは、授業はよくわかる(90%)、授業中は集中して勉強している(85%)と肯定的な回答の割合が高く、多くの児童が意欲的に授業に参加できている。 ○児童アンケートでは、先生は勉強がわかるまで教えてくれると感じている児童は90%であり、指導目標を明確にした授業づくりが進んできた。 △児童アンケートでの肯定的な回答が増加するような学習意欲を高める魅力ある授業づくりを進める。
生徒指導	○自ら考え判断して、生活上の諸問題を解決する力を培うとともに、人を思いやる心をはぐくむ。	○学校のきまりやルールを守ることの意義や重要性について、学級活動や道徳をとおして繰り返し指導する。 ○自らの意志で主体的に問題を解決する態度を育てるため、児童が自己決定していく場を増やした指導を行う。 ○豊かな人間関係をはぐくむため、児童会活動をとおして異年齢活動やチーム活動を活発にする。	○繰り返し考えさせる指導を行ったことにより、児童アンケートでは、学校のきまりや約束事を守っている(93%)、人が困っているときは進んで助けている(88%)と、規範意識に関する項目では肯定的な回答の割合が高く、指導の効果が表れている。 △指示されたことに取り組むだけでなく、自ら考え行動する児童を育成する。

健康（体育）・安全	○楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら、体力・運動能力の向上を目指すとともに、早寝早起きなど基本的な生活習慣を確立する。	○取組期間を設けて、朝マラソン、鉄棒、縄跳びなど、自らが取り組む体力づくりの活動に取り組む。 ○家庭との連携を図りながら基本的な生活習慣を確立し、生活を改善する取組を行う。 ○児童の欠席状況や欠席理由を全教職員が把握できるように、毎日の朝の職員打ち合わせで欠席児童の状況報告を行う。	○マラソンカード、縄跳びカードを活用して、意欲を持って体力づくりに取り組む環境を整備したことにより、進んで体力づくりに取り組む児童が増えた。 ○毎日、欠席児童及びその理由を全教職員が把握することができ、欠席管理の重要性が認識できた。 △基本的な生活習慣確立のための点検活動からは、早寝早起きに課題があり、重点的な取組が必要である。
特別支援教育	○一人一人の教育的ニーズに応じた、すべての子どもを支援する教育を推進する。	○特別な支援を必要とする児童一人一人の教育的ニーズに対応するため、個別の指導計画を改善していく。 ○通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童に対して、落ち着いた学習環境を整えたり、予定を示して先の見通しを持たせたりするなど指導方法を工夫する。	○各学期ごとに指導の検証を行い、アセスメント票や個別の指導計画を改善した。 △どの学級にも特別な支援を必要とする児童が在籍していることを前提に授業を行い、どの子にもわかりやすい授業であったかどうか、研究授業をとおして指導方法を改善する。
研修（資質向上の取組）	○職人としての熟達した技能、経験、勘やコツ及び専門家としての専門的知識、技能等を高める研修を行い、実践的指導力の向上を図る。	○授業研究を充実させるため、研究授業の回数を増やす。 ○身に付けさせたい力を明確にするとともに、指導事項や指導内容を精選するための教材研究の方法を研修する。 ○自らの考えをよりよいものにするための交流など、学習活動が活発になるコミュニケーションの方法を研修する。	○単元の全指導時間を公開授業とすることにより、互いの授業を参観できる回数が格段に増えた。 ○校内研修として教材研究を行い、教材研究から授業を組み立てる道筋についての研修が進んだ。 △基礎・基本を応用したり活用したりする学力を高めるための指導方法について研修する。
特色ある学校づくり	○外国語活動実践研究校の取組を生かし、目や耳から自然に英語に親しむことができる学習環境を整える。	○児童が英語活動の授業を楽しんでいることを目標指標として効果を検証する。 ○英語に自然に親しむ学習環境を整備するため、校内に日本語と英語の2カ国語の掲示物を増やす。 ○中間休みや昼休みの校内放送では、英語の歌を流す回数を増やす。	○英語活動の授業を工夫したことにより、91%の児童が英語活動の授業は楽しいと感じており、府平均より12ポイントも上回っている。 ○児童が英語の掲示物をみて特別なものが掲示してあるとみることなく、自然に慣れ親しんでいる姿が見られるようになった。 ○校内放送から流れる英語の歌を聞いて一緒に歌う児童が多くみられるようになった。
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 質の高い学力を身に付けさせるとともに学習することが楽しいと感じる児童を育成するため、引き続き指導方法の工夫・改善・開発に努める。 2 良好な人間関係を育成するため児童と教職員及び児童相互の心のふれあいを大切にする学級経営の充実に努める。 3 自らの課題を解決する実践力を育成するため、自己判断や自己決定を促す指導を充実させる。 4 意図的で計画的な教育活動を充実させるため、教員の労力と時間を授業に集中できるよう、教育課程を精選し教育活動の重点化を図る。 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立丹波小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「かしこく 仲良く 元気よく 生き生き笑顔の児童の育成」を主眼に、地域から信頼される学校をめざした教育を進める。 (学力の充実向上、豊かな心の育成、安心安全な学校づくり)</p>		<p>○「聴く・話す・姿勢」「自ら考え自ら行動する態度」を教育活動の中に浸透させるために、言語活動の充実を力注ぐことができた。 △学級の安定・家庭との連携による学習習慣の定着を図ることができなかった。</p>	<p>「楽しい学習体験」、「喜びを共感できる学級経営」、「意欲を高める全校活動」の3つの教育活動を柱とした組織的な教育をしていく。 (教師の指導力の向上、安定した学級経営)</p>
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<p>重点研究を中心にした授業づくりを生かした学習指導のスタイルを確立し、実践力の向上を図る。</p> <p>1 豊かな言語活動 2 学力の向上 3 新教育課程に向けた対応</p>	<p>授業実践力の向上のため、重点教科(国語科)の授業づくりの研究を行う。また、その実践方法を他教科へと広げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書く、読む等、全ての教育活動で言語活動を活性化する。 ・学力分析を行い、基礎・基本的な指導内容の洗い直しと表現力やコミュニケーション能力を高める取組を実施する。 ・家庭学習の見直し・長期休業中の補習、放課後補充の全校体制による取組を進める。 ・新学習指導要領の実施に向けた教育課程を編成する。 	<p>○国語科を中心に工夫した指導方法の研究により、児童の言語活動を高める指導が向上した。また、児童の表現活動に力を入れた結果、学習意欲等も高まってきた。</p> <p>○加配の活用による複数体制により、児童の基礎学力を習熟させるための指導や学級の安定を図ることができた。</p> <p>△児童の学習態度や指導方法を更に高め、実質的な学力向上につながる実践を展開していく必要がある。</p>
生徒指導	<p>生徒指導の3機能を重視した、積極的な指導をしていく。</p> <p>1 豊かな心の育成 2 人権・規範意識の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全教育活動に「自他を大切にできる児童」の視点を重視し、人間関係を深める指導を進める。(正しい規範、ルール、協力、思いやりなどの育成) ・道徳・人権教育を重視した取組を設定する。 ・早期対応と継続指導を重視し、問題行動や不登校を起こさない生徒指導や教育相談体制を確立していく。 	<p>○「学級づくり指標」を作成し、指導の共通化が図れた。</p> <p>○不登校児童の再登校や配慮を要する児童の改善が図れた。</p> <p>○保護者の協力により読書活動が活性化し、読書好きの児童が増加した。</p> <p>△児童の不適切な言動や行動が十分に解消していない。</p>

健康（体育）・安全	<p>健康で安全な生活ができる児童を育成する。</p> <p>1 基本的な生活習慣の確立と体力づくりの推進</p> <p>2 安心・安全な環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立(元気貯金・生活アンケート)、体力づくり、食育、性教育の指導(食物への関心や命の大切さを学ぶための掲示や展示)を継続する。 ・交通教室、避難訓練や防犯訓練を計画的に実施する。 ・保護者への自転車の安全に関する啓発を推進する。 	<p>○元気貯金の取組と関連した保健指導等により、児童の生活習慣が一定改善してきた。</p> <p>○小学校駅伝上位入賞。PTAと連携したヘルメット着用のための取組が会員全体に広がった。</p> <p>○安全パトロール等の取組により安全意識が高まった。</p> <p>△食育に関する取組の工夫と家庭への啓発の必要がある。</p>
研修（教職員の資質向上）	<p>「楽しい学習体験の追究」をテーマに、授業づくりの研修を進める。</p> <p>1 教員の実践意欲を高める。</p> <p>2 研究授業を通して授業力向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述に即した読み取りをもとにした国語科の授業づくり研究を通して、児童の言語力・表現力を高める取組を進める。(理論研修・検証的な実践・実践の成果を確認する場の設定と情報の発信をする。) ・授業実践力養成講座への参加や先進校視察をさせ、その結果を伝達講習させ、実践方法を波及させる。 	<p>○研究授業・公開授業・実践のミニ発表等の取組を通して、実践スタイルが共通理解でき、教員の実践意欲や児童の学習意欲、表現力等が高まってきた。</p> <p>○研修後の伝達講習等により教員の学び合いが進んだ。</p> <p>△教員の日常的な教育技術の検証と、教員個々の指導方法をどのように継承していくかが問われている。</p>
危機管理	<p>教育活動における危機管理意識を向上させる。</p> <p>1 報告・連絡・相談・確認の徹底による危機の未然防止</p> <p>2 地域や保護者等との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各事象や気づきの情報処理とその指導方針を確認し、対応する流れを機能化していく。 ・教育公務員としての主体的な服務規律を確保する。 ・保護者・地域から教育情報の収集や状況把握をする。交流等を通して、その具体的でタイムリーな対応をしていく。 	<p>○情報の共有を基本に、優先順位、報告・連絡・相談・確認といった教育環境づくりの動きが教員間で一定定着してきた。(学級の安定度・身近な事象の教訓化等)</p> <p>△更に、保護者・地域から諸情報が入ってくる仕組み・仕掛けを構築していく必要がある。</p>
開かれた学校づくり	<p>安心・安全な学校づくりを進める。</p> <p>1 保護者・地域の声の活用</p> <p>2 外部の力の活用</p> <p>3 外部評価の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な参観や懇談、日常的な家庭訪問等により、教育活動に関する情報をより収集する。 ・教科や総合学習、クラブ等の指導における地域人材を活用する。 ・保護者・児童の教育アンケート、民生児童委員・学校評議員・安全パトロール隊等の評価を活用して、学校改善を進める。 	<p>○月2回以上の学校便り発行とHPの更新により、保護者からの反応が増加してきた。</p> <p>○クラブボランティア講師、図書ボランティア、地域の先生の招聘により、教育活動が活性化してきた。</p> <p>△更なる地域教材・人材の発掘等、地域の声や力を活用していく教育活動を活性化させていく必要を感じる。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>「学力の充実向上」と「豊かな心の育成」を主眼に、児童課題と指導課題を明確にし、安心安全な学校づくりに向けた学校運営を心掛ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導方法の向上を図る取組を追究していく。(基礎学力の定着、読書や家庭学習習慣の確立) ・自分の思いや考えを伝え合い、児童の人間関係が高まっていく取組に力を入れ、豊かな心の育成を図る。(学習意欲、人権意識、規範意識の高揚) ・積極的な教育情報の広報により、保護者・地域との連携を更に深め、信頼される学校づくりを推進する。 		

平成 22 年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立長岡小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「自分の富士山に登ろう」という学校教育目標をスローガンに、勉強、遊び、そして自分に対して具体的目標を持ち、一步一步前進する。		<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律が定着し、学力の向上に向けて前進した。 ・組織的な生徒指導の取組が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた期間で実現可能な目標設定を持たせる。 ・目標を持つこと、その目標の内容を、個に応じたものとなるよう指導する。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・図画工作科における自己表現 ・学習意欲の喚起と継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数、国語を中心に確かな基礎学力の定着を図る。 ・教師自らが教材を十分研究して、授業づくりを行う。 ・一斉授業における個別指導をできる限り心がける。 ・図画工作科の指導は、心の感動を外に表現する心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力テスト結果の分析に終わらず、ノート指導、補習、家庭学習といった具体的な指導方法を進めた。その結果、年度末に再度算数と国語の学力テストを行ったが、正答率が 80%以上となり、基礎学力の定着につながった。 ○自己表現のための基礎的な技法及び技術を身につけることにより、思いや気持ちを表現することができ、全国教育美術展等で多数の入賞が得られた。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に気持ち良く登校し、児童同士の連帯感を強める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題事象についての早い、丁寧な対応に心がける。 ・児童会活動として、異年齢集団の遊びを組織する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題事象については組織としての対応を行い、保護者とともに早期対応、早期解決に心がけた。その結果、大きな問題行動に発展せず、早期解決ができた。 ○高学年が集団を組織してリーダー制を発揮し、楽しく遊ぶ姿が見られた。このことは児童の学校生活に心の安定が生まれ、大きな力となった。このことは学校生活が楽しいと答える児童が 95%以上であることから伺える。
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣を見直す（早寝とあいさつの励行） 	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝については、PTA と連携した取組として、学校と家庭で進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の早寝について理解と協力が見られた。また、基本的生活習慣全般の見直しと学校での学習意欲にもつながるという理解も得られた。

特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援を要する児童に対して、組織体制の確立、支援の必要な児童の実態把握を進め、具体的方策を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の状況について定期的に交流の場を設け、全教職員の共通認識を図る。 ・特別支援学級の活用、スクールサポーターの配置等で、教室及び取り出し指導等で支援をする。 	<p>○授業に参加できない児童、集中できない児童等、いろいろな児童に対する特別支援が組織として対応できた。</p>
研修（教職員の資質向上）	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会の充実 ・自己研修を基本とした授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会の研修を自己研修中心とする。また、自己研修、グループ研修、全体研修の研修スタイルを確立する。 ・児童にとって心を開くための指導方法及びその授業づくりを研究する。 	<p>○自己研修の中で十分な準備ができ、教師自身が意欲的な姿勢で指導できた教材は児童も同様に意欲的に学習することが見えた。</p> <p>△本年度の研修はほぼ終了していたが、年度途中、出産の関係で担任 3 名が休養及び休暇となり、組織体制が難しい状況となった。</p>
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域等との関連行事を通じて、児童の成長を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携だけでなく、安全ボランティア、長寿会、緑の少年団、公民館、長岡区等との交流を進める。 	<p>○校区が長岡区だけというメリットを生かし、伝統的で親密な行事及び交流ができた。特に、児童の表現発表の機会に地域の方々に大きな元気をお返しすることができた。</p> <p>△出来上がっている関係をより充実させるために、児童と地域の方々が直接触れ合える取組を取り入れ、今一歩進めていく必要を感じている。</p> <p>△総合的な学習の時間をもっと地域に目を向け、地域の方々から学ぶ機会を増やしていきたい。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に対して基礎学力の確実な定着に向けて、日常の授業改善として「授業づくり」を研究する。 ・特別支援教育について、本年度は組織体制という面で成果を見た。その上で、特別支援教育の充実を図り、支援を必要とする児童に対するていねいな指導を進める。 ・地域との連携（児童・学校と地域との直接的な触れ合い）を進める。そのために、児童も教職員ももっと地域に出て、日常的な交流を進めていきたい。 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮第一小学校]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>学校教育目標「郷土を愛し、豊かな心、確かな学力、たくましい体力をもち、強く生き抜く子の育成」を目指した教育を推進する。特に「一人一人が楽しく学べる学校、地域と共に育つ学校」の中期目標を達成していくために、学校組織の確立を図る。</p> <p>(1) 学校の組織化を進め、教職員の専門性を高める。 ・学校評価、教職員評価の活用</p> <p>(2) 家庭・地域と連携した教育を進める。 ・学校からの発信と公開、支援事業</p>	<p>前年度の学校経営を継承・発展させていくために、連続的な教育活動を行ってきた。</p> <p>(1) 成果</p> <p>ア 日常的な教育活動の共通化を図り、学習環境の整備を進める事が出来た。 ・学習規律の定着、学級経営の充実等</p> <p>イ 校内の特別支援教育を組織的に取り組む事が出来た。 ・全学級で、学期前に、気になる児童への家庭訪問の実施</p> <p>(2) 課題</p> <p>ア 確かな学力の定着度を高める。(指導力の向上)</p> <p>イ 学級懇談会の参加率を高める。(家庭との連携)</p>	<p>全教員の参画していく学校組織を作り、全教員で高め合う内容を作り、全教員が学校に責任をもつ学校づくりを進める。(「一小的教育ビジョンの実現」)</p> <p>(1)学年会を機能させる。(人材育成) ・実践や研究の交流を行い、教師の資質を高める。</p> <p>(2)3部会に参画させる。(指導力の向上) ・3つの教育課題(学習・約束・仲間)を全教育課程に位置づけ、組織的に取り組む。</p> <p>(3)理数教育を進める。(新学習指導要領への対応) ・学力の充実向上に努める。(移行内容の徹底) ・生活科と理科における授業改善を行う。</p>

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<p>(1) 新学習指導要領の移行内容の確実な実施と共通化を図る。</p> <p>(2) 全校的な学習規律を定着させながら、楽しい授業づくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・移行内容の一覧表を作成(各学年)し、週案に明記し、計画的に行う。 ・「授業のきまり」を作成し、全学級に落ち着いた学習環境を作る。(学習準備、「話す・聞く」等) ・生活科と理科を重点にして、児童の学習意欲が高まる研究を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○移行内容について、理科や算数科を中心に、計画的に指導を行う事が出来た。 ○教育課程説明会参加者より伝達講習を行い、各教科・領域のねらい等について共通化を図る事が出来た。 ○「授業の約束」で、共通した授業スタイルや学習意欲を高めていく授業づくり(特に理科)を進める事が出来た。
生徒指導	<p>(1) 豊かな人間関係を築いていく。</p> <p>(2) 全校指導の機会を生かした生徒指導を行う。</p> <p>(3) 地域行事に参加し、地域によさとつながりを図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外の「約束」を日々の生活改善の視点から、全校的に取り組む、異年齢集団を育成していく。 ・人権旬間や特別活動などと連動させた取組を行い、全校的な規範意識を高めていく。 ・地区の行事に参加し、地域の中で大切にされている事を実感させる。(地域で育つ子、地域に包まれた子をめざす) 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内の約束を子どもの目線で取り組み、豊かな人間関係を築いてきた。 ○500名が共通の場で学んだ「約束や規律」を少しずつ校内で生かせるようになってきた。 ○学期初めに、気になる子の家庭訪問を実施し、しほりや不安を解消していく取組を行う事が出来た。 △地域で育つために、地域だから出来る取組を共同で取り組んでいく必要がある。(めざす子ども像の共有化)

健康（体育）・安全	<p>(1) 校内の安全指導を徹底していく。</p> <p>(2) 保健室の機能を取り戻す。</p> <p>(3) 安全な登下校の指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下歩行や遊ぶ場所等について児童の課題意識と具体的な取組を連動させながら定着させていく。 ・一人一人の安定した居場所を作る。 ・登校班の規律とマナーを定着させるために、学校と家庭と地域が共同で立ち番を行う。 	<p>○安全指導に「意義づけ」を行い、危ないから走らない等の判断力を養う指導や支援が定着してきた。</p> <p>○遊びの広がりも増えてきた。（チーム遊び等）</p> <p>○保健室への来室者及び怪我が激減してきた。</p> <p>△登校等の安全意識を高めていく必要がある。</p>
危機管理	<p>(1) 児童の安全意識を高める取組を行う。</p> <p>(2) 教員の危機意識を高める取組を行う。</p> <p>(3) 「報告・連絡・相談」体制を確立していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や不審者対策を想定した訓練を行う。 ・交通安全教室を行い、交通マナーを定着させていく。 ・公文書等の管理方法をマニュアル化していく。 ・サービスについて指導を行い、高い意識と対応力を身につける。 ・事例研究を行い、危機管理意識を高める。 	<p>○避難訓練等の集合、行動がスムーズになってきた。</p> <p>○交通事故（自転車の事故も）が減ってきた。全校的な啓発や全校指導の成果が出ている。</p> <p>△公文書の扱いや個人情報の管理体制を確立していく。危機管理マニュアルも児童の環境を考慮しながら、より実践的なものにしていく。</p>
特別支援教育	<p>(1) 一人一人の教育的ニーズを明らかにした特別支援教育を進める。</p> <p>(2) 教育相談・就学指導等を組織的に進めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画、指導計画を作成し、個に応じた特別支援教育を進める。 ・特別支援教育コーディネーターのもとで、全校的な特別支援教育を進めていく。 ・不登校傾向への児童の取組を組織的に進める。 	<p>○定期的な情報交換や会議を通して、個別的な支援状況を把握し、全教員の支援態勢のもとで進める事が出来た。</p> <p>○教育相談部の機能化、個別の支援の高まりにより、不登校傾向の児童が自ら教室に行くための「スケジュール」を作成し実行するなど、よい結果を生み出している。</p>
特色ある学校づくり	<p>(1) 開かれた学校づくりを進める。</p> <p>(2) 全員参画の教育活動を推進していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開を行う。 ・学習支援ボランティアを活用した取組を行う。 ・理数教育につながる研究を行う。 （特に、3部会の内容の具体化を通して） ・特別活動を計画的に行う。 	<p>○10月29日に重点教科（理科・生活科）を中心に授業公開と昼休みや図書ボランティアの取組等を公開し、今年度の教育活動の状況を知らせる事が出来た。</p> <p>○理科の授業研究や教材研究を通して、「楽しい授業の追求」の共通基盤を作り上げてきた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>(1) 基本的には本年度の「一小の教育ビジョン」の実現に向けた学校経営を継承・発展させていく。</p> <p>(2) 学校の組織化を進めていくために、全教員が参画していく学年会と全教員が3部会（学習＜学習指導部＞・約束＜生徒指導部＞・仲間＜特別活動部＞）に所属し、専門性を高めながら組織的に児童課題を解決していく。</p> <p>(3) 質の高い教育を進めていくために、理数教育の充実と「ことばの力」の育成を全教科に位置づけていく。また、今年度の学習支援事業（図書館教育・家庭科等）を拡大し、開かれた教育活動を展開していく。</p> <p>(4) 今後の小学校と中学校との連携についても、児童・生徒の交流を行い、接続（中一ギャップ）の課題を克服していく。</p>		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮第二小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
かしこく やさしく たくましく ～自分で考え、行動できる児童の育成～		○不登校傾向児童0人の継続ができた。 ○規律ある学校生活が過ごせた。 △考える力、学んだことを活用する力の向上	①自分の考えに理由をつけて言える児童の育成 ②友達の気持ちを思いやれる児童の育成 ③自分の生活を見つめ改善しようとする児童の育成
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	○考える力を育てる。 ・意味や理由を考える授業、学んだことを活用する授業づくり ○読み・書き・計算する力を伸張させる。 ○児童の語彙量を豊かにする。	○自分の考えに理由をつけて発言する授業づくりをする。 ・課題解決的な学習過程の授業づくりをする。 ① 説明的文章の読み方学習の充実を図る。(学んだ読み方を次に生かす授業づくり) ② 算数科における「考え方」と「やり方」を明確にした授業づくりをする。 ○繰り返し練習して身に付く学習(読み・書き・計算等)の充実を図る。 ・週時間割に位置づけ、全校で取り組む。 ・全校計算大会・漢字チャレンジに取り組む。 ・国語読み方練習・算数やり方練習に取り組む。 ○家庭学習の充実を図る。 ・「自主勉強プリント」や「家庭学習の手引き」の活用を図る。 ○「全校1万冊読書」「朝読書」の取組をする。	○課題解決的な学習を通して、自分の意見に理由をつけて発言出来るようになった。 ○説明的文章を、学んだ読み方を活用して読む児童の姿が見られるようになった。 ○学んだ知識、技能の活用を通して、「考える力」を伸ばしてきた。「答え」を出すことが中心の学習から、その根拠や理由も大事にできる学習へと変わってきた。 ○繰り返し練習し、「読み・書き・計算」する力の伸張が図れた。 ○読書活動が「読む楽しさ」を求める姿へと広がり始めている。 △知識・理解、技能とその活用の仕方を一層学ぶ。(思考力の育成を図る。「学び方」の習得に繋げる。)
生徒指導	○人間関係力の育成を図る。 ○生活規律の向上を図る。 ・他律(大人に言われて)から社会律(仲間と共に)へ ○保護者と児童課題を共通理解し、指導の充実を図る。 ○挨拶の励行を図る。 ○不登校0人の継続を図る。	○学級経営・全校活動・学級活動の充実を図る。 ・生徒指導の3機能を生かした取組を進める。(児童会活動、学級活動と学校行事との連動、班づくり、学習集団の育成、学校・学級ルールづくり、作文や日記の交流等) ○学校生活のルールやマナーを仲間と共に守る取組の充実を図る。 ・学校や学級の「社会律」の育成の強化を図る ・児童会・学級活動との連動・生活改善の取組を進める。 ○教育相談・就学指導の充実(定期懇談等)を図る。	○友達の長所・頑張り・特性を評価する肯定的、前向き、励ましの言葉が増えてきた。 ○大人に言われて(他律)でなく、仲間と共に(社会律)ルールやマナーを守る姿が見られるようになった。 ○保護者との信頼関係の中で教育相談・就学指導が進み、児童の課題に応じた有効な指導が展開できてきた。 ○不登校児童0人の継続ができた。 △自分達から進んで挨拶できるようする。 △仲間の中で正しく自己主張(非攻撃的)する力を付ける。

健康（体育）・安全	<p>○体に関する科学的な認識を育てる。</p> <p>○体に関する科学的な認識を基礎に健康な生活を作る取組を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビ・ゲームの時間を減らす。 	<p>○食育・安全教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の給食指導のルールやマナー指導の徹底を図る。 ・「食」に関する授業の充実を図る <p>○健康な生活づくりの取組を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝マラソン・縄跳びの取組を行う。 ・児童会廊下歩行の取組等を行う。 ・「早寝・早起き・朝ご飯+家庭学習旬間」に取り組む。 	<p>○本年度も全校児童欠席0の日100日の達成、ほぼ全児童が給食時間内に完食出来るようになる等、体に関する科学的な認識を生活改善に生かしている姿が見られる。</p> <p>○体や食・安全に関する知識・技能の伸長が図れた。</p> <p>△学んだ体や食・安全に関する知識・技能を生活改善に一層生かしていく取組を進める。</p> <p>△テレビゲーム・テレビ視聴時間の縮減を図る。</p>
開かれた学校づくり	<p>○地域や家庭へ、学校教育活動に対する理解が深まり、広がるように取組を進める。</p> <p>○児童課題を、家庭、学校が共通理解して、解決を図る。</p>	<p>○学校便り・学級便り・ホームページの充実を図る。</p> <p>○月1回の授業参観の開催、地域住民の学校行事等の参観を行う。</p> <p>○地域ボランティアの活用を図る。</p> <p>○保護者啓発を図る。(家庭生活の在り方について、健康や学習の視点で「たより」の発行を図る)</p>	<p>○児童の育成について、学校・保護者が共通理解し、教育活動を行うことが出来ている。</p> <p>○児童と担任、保護者と担任の信頼関係が一步高まった。</p> <p>△学校、保護者が児童課題を共通理解し、取組を進める。(家庭と学校が、「家庭生活で付ける力」、「学校で付ける力」について共通理解し合う。)</p>
危機管理	<p>○危機管理マニュアルの見直しと確認を図る。</p> <p>○タイムリーで細かな連絡・報告・相談を怠らない。</p> <p>○リーガルマインド・コンプライアンスの視点で教育活動の見直しを図る。</p>	<p>○報・連・相を徹底し、的確な状況把握と迅速な対応を図る。</p> <p>○管理マニュアルの見直しとそれに従った管理、指導の徹底を図る。</p> <p>○保護者へ丁寧な連絡をする。</p> <p>○リーガルマインド・コンプライアンスの視点で教育活動を見直す研修をする。</p>	<p>○「報・連・相」を組織として機能させることができた。</p> <p>○学校事故、文書管理、学級費管理等、マニュアルを生かした対応ができた。</p> <p>○諸事案に保護者の協力を得ながらの対応ができた。</p> <p>△リーガルマインド・コンプライアンスとエデュカショナルマインドの視点で教育活動を見直す。</p>
職員の研修	<p>○授業力の向上を図る。</p> <p>○学級経営力の向上を図る。</p> <p>○保護者対応力の向上を図る。</p>	<p>○教職員評価の充実を図る。</p> <p>○初任者研修を中心に研修の充実を図る。</p> <p>○京丹後市の実践モデル校の指定を受け研究を進める。(授業研究会を中心に研修を深める。)</p> <p>○学級経営の理論、実践研修を行う。</p> <p>○家庭訪問の仕方の研修を行う。(伝える内容の確認と報告等)</p>	<p>○教職員評価による実践力の向上が図れた。</p> <p>○研修に若手教員が積極的に参加し、授業実践力・学級経営力・保護者対応力を一步向上させた。(児童が自分の意見や考えに理由を付けて発言する授業を目指した研修を進め、力を付けた。)</p> <p>△児童課題を把握する力を向上させる。</p> <p>△児童の活用力・思考力育成の指導についての研修を進める。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>○「読み・書き・計算」力等、知識・理解・技能の確実な獲得とその活用の仕方を学ぶ中で、「考える力」を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型4過程の授業を通して充実を図っていく。(国語の「読み方」学習を中心に指導の在り方を研究し、実践化を図る。) <p>○「他律」的な規範意識や言動を、「社会律」的なものに高めていく。(学級経営の充実、全校活動・児童会活動の充実を図る。)</p> <p>○不登校0の継続と欠席日数を一層減少させる。(教育相談の充実を図る。)</p>		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮第三小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
一人一人が輝く学校 (1) 児童一人一人の可能性を追求し、伸ばす。 (2) 一人一人に居場所がある楽しい学校にする。 (3) 家庭や地域に愛され開かれた学校にする。		○全校統一した取組で目標を明確にして、全教職員が共通理解をして進めることができた。 ○丁寧な個別指導により、全員発言や感想文等一人一人を大事にした学習指導を展開することができた。 児童の主体性・自立性を高める取組 (自信とやる気を育てる。) △児童の主体性を育てる学習の推進 (話す力・書く力) △児童の自主・自立をはぐむ生徒指導と特別活動 △学校外への積極的な挑戦	(1) 基礎基本の学力や体力を継続してつける。 (2) 家庭との連携で家庭学習を定着させる。 (3) いじめや仲間外れのない学級・学校をつくる。 (4) 児童会活動を中心に児童の自主性を育てる。 (5) 対外的な取組へ積極的に応募・挑戦し自信を付けさせる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
教育課程 学習指導	1 確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ児童を育てる。 2 小規模校・極少人数学級の利点を生かした授業を行い、基礎学力の向上を図る。 3 少人数学級の弱点を補う。	1 国語科を中心とした授業づくり <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをまとめるノート指導を充実させ、書く力を付ける指導を学校全体で系統的に行う。 確かに読み、自分の考えを自分の言葉で話し、伝える力をつける。 2 明確な目標を明示した全校統一の取組を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 各学年で付けたい基礎学力を全ての児童に付ける取組 学習規律の取組 全員対象の放課後学習 (漢字・計算) の実施 3 人との関わり合いを広げる取組を行い、少人数学級の弱点を補う。 <ul style="list-style-type: none"> 全校暗唱、学年発表、他学年との音読交流会の実施 対外的な取組への積極的な挑戦 	○ 自分の考えを出し合ったり、ノート指導をもとにした書くことを大切にしたい授業づくりを行った。丁寧に文字を書き、自分の思いを出し合ったり、書くことに積極性がみられるようになった。 ○ 国語の授業の指導過程がわかるように「三小プラン」を作成し、プランに沿った研究授業を実施し、指導法の研究を全校体制で行った。(授業がわかりやすいと98%の児童が回答している) ○ 児童のやる気を引き出す指導に努めたことで、児童の学ぶ意欲・チャレンジする気持ちが高まってきた。対外的な発表やコンクール等に参加・応募し、児童が自信をもつことができた。児童の笑顔に表れている。 △ 場に応じた声の大きさや明瞭な話し方については継続した指導が必要である。 △ 基礎・基本の更なる定着、発表力向上、言葉の力の育成から思考力を高める指導法を研究・実践する必要がある。

生徒指導	<p>1 児童会活動を中心に自主性を育て、仲間はずれのない学学校をつくり、学校が楽しいと思える児童を育てる。</p> <p>2 楽しい学校生活を送るためのルールやマナーを行動に表せる児童を育てる。</p>	<p>1 生徒指導部を中心とした取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席者の状況、気になる児童の状況を克明につかみ、手だてを打つ取組 ・月目標を設定して社会規範意識を高める取組を児童会と連携して行う。(あいさつの励行・時間励行) <p>2 児童・教職員の人権意識の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回の人権旬間の取組、人権アンケートの実施 ・教職員研修会の実施 	<p>○学校が楽しい児童が96%、学級でいじめやいやがらせがないように取り組んでいる児童が92%という回答も含めて、学校としても達成感をもっている。児童の企画・運営による異年齢集団活動を日常化し、幅広い人間関係をもてるように取組を進め、児童も達成感を味わっている。</p> <p>○月目標を設定し、生徒指導部と児童会の連携による取組等で元氣よく挨拶や返事ができるようになってきている。</p> <p>△児童の気付きをもとに問題解決できる力をつけていく。</p>
健康（体育）・安全	<p>1 運動能力の向上を図る。</p> <p>2 自己管理できる児童を育て欠席日数を減らす。</p>	<p>1 年間を通した体力づくりの継続</p> <p>2 家庭と連携して基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早寝・早起き・朝ご飯の取組 ・肥満児童への組織的な指導 	<p>○真面目に朝マラソン等に取り組む、校内マラソン大会でも新記録がでたり、欠席も減ってきた。</p> <p>△更に、よりよい生活リズムをつくれるよう、家庭と連携して改善していきたい。</p>
開かれた学校づくり	<p>地域の方との触れ合い・体験を通して、地域を愛する心を育てる。児童の人間関係の幅を広げる。</p>	<p>1 総合的な学習において地域の人的な活用を図る。</p> <p>2 大宮第三小学校区セーフティーネットと連携した取組の充実に努める。</p> <p>3 学校支援ボランティアの活用を積極的に図る。</p>	<p>○地域の方の協力で農業体験から児童に感謝する心を育て、自分の気持ちを伝えつながりをもつことができた。</p> <p>○地域別懇談会をもち、学校と地域とのつながりを継続する機会となった。学習支援付き添い登校等お世話になった。</p> <p>△更に、総合的な学習の時間等の内容を見直し、改善する。</p>
研修(教職員の資質向上)	<p>教員の資質能力・授業力の向上を図る。</p>	<p>1 重点研究(国語科)を中心とした校内研修を実施する。</p> <p>2 放課後の職員室を研修の場とする意識を育てる。</p> <p>3 研究授業以外にも積極的に授業公開をする。</p>	<p>○自主的に授業公開する学年もあり、授業力向上に学校全体で取り組むことができた。「道場教室」が生まれた。更に、研鑽を積み上げ授業力の向上を目指したい。</p>
特色ある学校づくり	<p>「小町の里」として古典に親しむ取組を進める。</p>	<p>1 小町ろまん短歌大会への応募、全校暗唱「枕草子」</p> <p>2 児童会による「カルタ大会(大宮町カルタ・百人一首)」を実施し、遊びを通して古典に触れる。</p>	<p>○児童全員が「枕草子」を暗唱でき、児童も教師も達成感をもっている。ルールを学んで遊ぶ心地よさを体感できた。</p> <p>△児童が楽しみながら、古典に親しめるようにする。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>◎本校の地域財産(ブナ林・小町の里)、地域文化(児童会主催の大宮町カルタ・百人一首大会)、地域連携(農作業体験)を教育の軸とする「大宮第三小ならでは」の教育を推進する。児童一人一人を輝かせるために、「三小スピリット」としてチャレンジ精神・実直さ・礼儀を教育の土台に据え、心身を鍛える。本校の「学び合い道場教室」を継続する。</p> <p>○「古典に学ぶ・古典の学校」として、俳句・短歌・カルタ百人一首に取り組む。言葉の力・人とつながる力の育成</p> <p>○農作業からの感動体験をもとに、感動を綴り、感謝の気持ちを表現する指導を進める。社会性・礼儀を学ぶ。</p> <p>○感動体験を学ぶ意欲につなげ、個に応じた指導を徹底させ、学力向上につなげる。</p>		

平成 22 年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野北小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>「やさしく かしく たくましく」</p> <p>学校経営方針中期目標には、6年間の教育活動を通して「確かな学力を身に付けるとともに、思いやりの心を育み、健康や安全に対する実践力を育てていくこと」への願いを込めている。</p>		<p>【成果】①児童へのアンケート結果からも児童同士の良好な人間関係づくりを通して安定した学級経営となっており、学校生活への満足度は高い。②4年の学力診断テストが国語、算数とも京都府平均を大きく上回るとともに、6年の全国学力・学習状況調査においても、B問題では京都府、全国平均を上回ってきている。</p> <p>【課題】地域で出会った人や来校者へのあいさつが不十分であるので、気持ちよくあいさつができる子を増やしていく。</p>		<p>①教師と児童及び児童同士の良好な関係が築ける教育活動を行う。</p> <p>②各学年で学習すべき内容の確実な定着を図り、学年間の円滑な接続を行う。</p> <p>③各教科、道徳、特別活動等を通して、社会生活に必要な規範意識を高める。</p> <p>④健康や安全に対する意識を高め、心身ともにたくましい児童を育成する。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題（自己評価）	
教育課程 学習指導	○学年で学習すべき内容の確実な定着と活用力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 児童のつまづきを予測し、単元全体を視野に入れた授業づくりを進める。 安定した学級づくりを通して児童個々の学習意欲を高め、学力の向上につなげていく。 学習の定着や習熟を図れる時間の確保と個々の児童に応じたきめ細かな対応を行う。 		<p>○学級の安定が児童のモチベーションを高め、学力の向上に大きくつながってきていることが各種テスト結果から明らかになってきている。</p> <p>△基礎的な部分の定着は成果が見られたものの、図や言葉を使っての説明を必要とする“活用型”学力への取組が必要である。</p>	
生徒指導	○児童同士の良好な関係が築ける教育活動の推進と規範意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 互いの違いや良さを認めあえる学級づくりを行う。 異年齢集団による遊びや行事の取組を通して良好な人間関係の形成と規範意識を高める。 P T A や地域と連携し交通マナーの向上を図る。 		<p>○約 96%の児童が「学校生活が楽しい」と回答するなど、児童同士の良好な関係が築けているとともに、廊下歩行などの規範も高まってきている。</p> <p>△一部の学級で女子のグループ化による仲間外れが発生に対して粘り強い取組を行った。今後も学校としての素早い対応を行う。</p>	

健康(体育)・安全	○健康や安全に対する意識を高め、心身ともにたくましい児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の基盤である健康や安全に対する意識を高める。 ・体育、スポーツ活動を通して体力・競技力の向上を図る。 	<p>○健康や安全への意識が高まり、怪我や事故等も減少してきている。</p> <p>△体力、競技力等も期待通りの結果となっていない面があるので、芝生の活用とつなげていく。</p>
研修(資質向上の取組)	○学力向上研究指定校(文科省、府教委)を生かした研究推進体制の確立と指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・府総合教育センターと連携した授業研究を進める。 ・大学教授等を招聘した研修を行う。 ・教員個々の指導力の向上を図る。 	<p>○徐々に若手教員の授業に対する指導力が向上してきている。</p> <p>○学年会を中心に授業研究が進み、基礎学力の向上が図られてきている。</p> <p>△これまで学習してきた内容をつなげた“活用型”学力を形成させていくための授業研究が求められる。</p>
特別支援教育	○特別支援教育の理解と場に応じた対応力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・発達等に課題のある児童及び保護者への教育相談活動を充実させる。 ・発達障害の子を取り込んだ学級づくりとともに日々の授業を工夫する。 	<p>○学校と保護者とが同じ視点で取り組めるように担任(学校)と保護者との関係強化に努める中で、安定した学校生活となっている。</p> <p>△理解が得られない一部保護者には、今後も粘り強い対応が必要である。</p>
開かれた学校づくり	○保護者・地域との連携を進める中で、本校の教育への協力支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学級だより、懇談会等を通して、保護者や地域と課題を共有する。 ・ホームページの更新などを通して、タイムリーな情報提供する。 ・学校支援ボランティアの活用による協力・支援体制を充実していく。 	<p>○授業参観、懇談会の出席が増加してきている。</p> <p>○定期的なホームページの更新とともに、PTAのブログによりタイムリーな情報提供が行えた。</p> <p>○読み聞かせ、介護、ソロバンなどボランティアの活用が進み、多様な角度からの支援を受けることができた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> ① 3年間の研究指定校が終わるが、今後も研究・実践と児童の学力の定着・向上とを一体として捉えた研究活動を推進する。 ② 地域で出会った人や来校者へのあいさつが不十分な面が見られるので、気持ちよくあいさつができる子を増やしていく。 ③ P T A、地域との協力を得ながら、交通マナーの向上を図る。 ④ 運動場の芝生の維持管理に向けて、行政、学校、保護者、社会体育団体等とより一層連携を推進していく。 ⑤ “活用型”学力を形成させていくための授業研究に取り組む。 ⑥ 互いの違いや良さを認めあえる学級づくり重視し、仲間外れやいじめのない学級や学校づくりを一層進める。 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野南小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
○心やさしく 進んで学び きらり輝く子の育成		○教師のチームワークを基盤に、学校全体の一体感を醸成する取組が進められ、子ども達も全体での規律や行事を進める力がついてきた。 ○日々の生徒指導の取組により、落ち着いた学校生活を送ることができている。 △全体としての学力の向上は見られたが、個々の課題は依然として厳しい。	◎課題の共通理解に努め、自己の役割に責任を持ち、チームで教育実践を進める。 ①組織的協働的な推進 ②研究指定の取組を生かした、学級・授業づくりの実践力の向上。 ③学校の取組を丁寧に説明、理解と協力を得た安心で安全な学校づくり ④新学習指導要領への準備
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学習となるように学習の構造化を工夫し、集中しあった学び合いの授業を高めていき、学力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科の「読み方」について重点的に研究し、授業の共通のイメージ化を図るとともに、授業研や公開授業を通じて、指導者全員が一定授業の進め方について理解し、進められるようにする。 「学びあい」を大切に取り組み、ペア学習やグループ学習など、児童同士の関わり合いを大切にした授業を展開する。 	<p>○全員による視察や理論研を通して授業の進め方を一定共通理解でき、日々の授業を改善することができた。その結果として、児童の考えや一人学び、学びあいを生かした授業が進められ、児童が学び方を知った上で日々の授業の中で意欲的に考え、表現して学ぶことができるようになってきた。</p> <p>△より児童一人一人に焦点を当てて、目に見える学力の向上も含めて伸ばしていく。</p>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 学級づくりを基礎にして、意欲的、自立的で一体感のある全校集団を育成する。 1年間を見通し、課題解決の過程を大切にした教師・児童が信頼し合う所属感のある学級づくりを追求する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度のキャッチフレーズを常に意識させ、全校朝会や全校が動く場面、給食の時間など全員での規律ある活動を進めることで、全校での一体感を醸成していく。 全校活動の事前事後には、学級での発達段階に応じた指導や評価を大事に進める。 重点研究に連動した、発達段階に応じためざす学級像と手立てを学びあい、実践する。 	<p>○日々の全校活動や全校行事では学校全体の雰囲気高め様々な教育活動を進めることができた。その結果として、児童に心をつなぐ一体感や取組を通じた達成感を感じさせることができた。</p> <p>○課題解決の過程を大切にした指導により、児童同士の問題について考え、解決することができるようになってきた。</p> <p>△学級によっては学級のまとまりや所属感の面で弱い部分があり、今後も引き続いて児童が課題意識や意欲を持てるようにしていく必要がある。</p>

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> 給食研究大会会場校の取組を生かし、本校の食に関する指導の改善に生かす 	<ul style="list-style-type: none"> 食育基本法等諸法規について学び、本校のランチルーム給食の意義や食育指導の在り方等について検証を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○給食研究会の発表会を期に給食の意義や食指導の在り方について検証し、給食や食育の進め方について改善することができた。 ○日々のランチルーム給食における指導を継続し、マナーや食に関する指導を行い、児童の力を伸ばすことができた。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人を大切に取組を一層進め、特別支援教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害をはじめとして一人一人の状況の見方についての研修を実践の中で進める。 個に応じた授業の在り方について考え、一歩進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達障害等課題のある児童一人一人についてケース会議を持ち、指導方針を確認しながら進めることができた。 △個の課題に応じた一斉授業の在り方については、今後も日々の授業の中で研究し、積み上げていく必要がある。
研修(資質向上の取組)	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の研究内容（国語科、小中連携、食育）を主体的に理解し、日常的な実践を工夫し進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の時間を確保し、それに基づいた一人一人の研修を積極的に進める。 学んだことをもとに、低中高学年ブロックを中心に日常の実践につなげる。 11月の給食研究会、1月の小中連携発表会を開催し、それに向けて研究を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全員がめざす授業のイメージを共有化することができ、それに向けた低中高学年ブロックごとの実践が進んだ。 ○2つの研究会・発表会を実施し、外部の先生方に本校の取り組みを発信しよい評価を受けることができた。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子を保護者や外部に積極的に発信する。 児童課題に対応した関係機関との連携、保護者・地域との連携を大切にしながら進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新の改善を図る。 教育活動や出来事等の保護者への丁寧な説明を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページを毎月ごとに更新し、学校だよりや学級だよりと合わせて情報を発信することができた。 △保護者のニーズは多様であり、より対応した連携が進むように丁寧な取組を進めていく必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	<p>◎心も体も安心、安全な学級、学校づくりを進め、授業と活動の中で子どもたちに生きる力を更に高める。 特に次の4点を重点的に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① より児童一人一人に焦点を当てた授業や指導を目指し、目に見える学力も含めて伸ばしていく。 ② 学級の実態に応じて児童が課題意識や意欲を持てるようにしていく。 ③ この課題に応じた一斉授業のあり方については、研究及び実践を進めていく。 ④ 保護者のニーズにより対応した連携が進むよう、丁寧な取組を進めていく。 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立島津小学校]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「郷土を愛し、自然とふれあい、かしこく、心豊かで、たくましい児童の育成」</p> <p>1 自然に働きかけ、自分の考えをもち、関わり合っ て学ぶ力の育成 (確かな学力)</p> <p>2 良さを認め、良さでつながる子どもの育成 (豊かな心)</p> <p>3 きびきび生き生き活動できる力の育成 (健康な体)</p>	<p>【成果】</p> <p>1 理科を中心にしながら、あらゆる教科の中に体験活動を取り入れ、自然の事物・現象に関心をもつ児童を育成することができた。</p> <p>2 日常活動を大切に、朝体力づくりや朝読書など、朝の始まるの活動や掃除、給食など、工夫しながら継続して取り組むことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>1 島小ルール(授業規律等)の徹底を更に進める。</p> <p>2 学習意欲を高めるためのグループ学習等、児童が主体的に学習を進める学習形態の研究と実践する。</p>	<p>1 「学ぶ」学校づくり 授業を最も大事にし、生き生きと学ぶ児童を育てる。引き続き、「体験」「考える」をキーワードに、児童が興味をわく学習を進める。基礎学力の充実を図る。</p> <p>2 「信頼」の学校づくり 心を育てる指導を大切にする。児童の良さに目を向け、良い行いを励ます指導を続ける。</p> <p>3 「躍動感」のある学校づくり 毎日やるべきことをやりきる指導を続ける。児童会活動を活発にし、児童が日々楽しみになる活動をつくる。</p>

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の徹底を図り、確かな学力をつける。 「考える力」を伸ばす。 学び合い、関わる力(コミュニケーション能力)を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書タイム、チャレンジタイム、放課後補充学習など個に応じた指導を意識し、毎日の学習を確実に進める。 すべての教科で体験活動を重視し、実感の伴った理解を図るとともに、授業の中に「考える」場面を意図的に入れる。 学び合いを進め、書き、話し、表現することを大切にする。 	<p>○朝読書年間 150 回、チャレンジタイム週 3 回実施し、読むことなど基礎学力の充実につながった。</p> <p>○放課後補充の取組で学校支援ボランティアを活用し、計算力等の習熟が図れた。(年間 10 回実施)</p> <p>○理科を中心にしながら各教科で様々な体験活動を実施した。(外部講師の招へい年間 20 回)児童の学習への意欲を高めることができた。(理科が楽しい 96%)</p> <p>○家庭学習ががんばり週間を年間 4 回実施した。「島小ルール」(学習規律)の徹底が図れ、自ら学ぶ児童の育成について成果があった。</p> <p>△自分の考えを書く指導を入れ、多様な考えを引き出すことはできたが、整理しまとめる力をつけきれなかった。</p> <p>△考えを絡ませたり、練り合わせたりする指導方法の研修に十分な時間をとれなかった。</p>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 良さでつながる人間関係づくりを進める。 全校児童が一体となり躍動感のある活動づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶運動をとおして「ありがとう」でつながる学校を作る。 遊びをとおして笑顔のあふれる学級づくりを進める。 児童会行事など全校活動や異年齢活動の充実を図り、役割を自覚させ責任をもって取り組ませる活動を推進する。 	<p>○人権の取組で「ありがとう」カードを集め、感謝の気持ちを意識させることができた。(600 枚以上のカード)</p> <p>○持ち物、廊下歩行、呼び捨て等の取組が進み、基本的な生活態度が良くなった。</p> <p>○前例踏襲でない創意工夫のある児童会活動(委員会等)が進み、意欲的に活動する児童が増えた。</p>

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・きびきび、生き生きと活動できる児童を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いつでも、どこでも、誰にでも、大きな声」を合言葉にした挨拶運動を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・朝の体力づくり（朝マラソン等）を年間とおして実施する。 ・チャイムを意識させ、きびきび行動する児童を育成する。 ・集団登下校をとおして、安全な通学をめざす。 ・避難訓練など、安全対策の取組を行う。 	<p>○朝の体力づくり（マラソン、雑巾リレー、ヨガ体操、遊具サーキット、縄跳び等）年間77回実施。学年ごとに目標をもち取り組むことができ、体力向上に結び付いた。</p> <p>○「あいさつって117（いいな）」などオリジナルな挨拶運動を実施し、声を掛け合う雰囲気が生まれた。</p> <p>△通学班会など繰り返したが、下校指導に課題が残った。</p>
研修（指導力の向上）	<ul style="list-style-type: none"> ・府小研の理科研究協力校、センターの理科共同研究校としての活動を推進する。（中間発表会11月） ・日常的な授業研究の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科研究を中心として、知恵を出し合う教科研究の充実を図る。（実験、観察を重視した自ら動いて深まる研究活動） ・身近な自然の事物・現象に積極的に働きかけ「なぜ」「どうして」「不思議」を感じる心を育てる。（教員も児童も） ・日常的な公開授業の取組(校内)を進め、教材研究や授業づくりについて、互いに研修し合う雰囲気をつくる。 	<p>○中間発表会(11月)を目標にしながら、理科の授業実践を積み上げることができた。本校独自のオリジナルな授業展開が多く生まれ、児童に理科の楽しさを味わわせることにつながった。</p> <p>○様々な教科で学期に数回の重点単元を設定し、日常的な公開授業や研修が進み、教員の指導力向上につながった。</p>
人権教育 特別支援 教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ・心の教育の充実を図る。 ・すべての児童に目と手が届く指導の充実を図る。（ユニバーサルデザインの教育） 	<ul style="list-style-type: none"> ・困っていたり、悲しんでいたりする児童を見逃さない目と心を教員が持てるよう研修を進める。 ・不登校、ADHD等の研修を進め、深い児童理解が進むようにする。 ・児童の実態交流を定期的実施するとともに、課題の大きな児童への対応を組織的に進める。 	<p>○6月人権月間、11月人権旬間を学校全体で進め、人権に関わる学級や学校の課題を明らかにし、改善の取組を進めることができた。児童が主体的に進めた「ありがとうって117（いいな）」の取組で児童の心のつながりをつくることができた。</p> <p>○登校しぶり等、教育相談部を中心に組織的に対応することができ、児童の発達や状況の改善につながった。</p> <p>△課題の大きな児童への対応や研修に課題が残った。</p>
開かれた 学校	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる機会を利用して情報発信を心がける。 ・地域から学ぶ取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学級だより、ホームページなどで学校の様子を知らせる。 ・丁寧な家庭訪問を心がけるとともに、保護者等の要望や指摘について即対応していく。 ・PTAと連携し、授業参観、学級懇談会等、保護者に学校に来てもらうことを増やす。 	<p>○学級、学校等たよりを充実し、保護者の学校への意識を高めることにつながった。また、保護者の学校来校を増やすことができた。（のべ800人、一家庭当たり7～8回）</p> <p>△ホームページの小刻みな更新に課題が残った。</p> <p>○保護者の指摘等に迅速に対応でき、信頼につながった。</p> <p>△地域ぐるみで子どもの安全を守る取組が不十分だった。</p>
次年度に 向けた 改善の 方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 理科研究を足掛かりにしながら、児童が意欲をもって主体的に学ぶ授業づくりの更なる充実させる。全職員体制で総力をあげて研究や研修を進め児童に確かな学力を身に付けさせていく。京都府小学校教育研究会、京都府総合教育センターとの共同研究を積極的に推進する。（研究発表会6月17日） 2 「体験活動(実験、観察)」や「考える(思考)」を取り入れた授業の充実を図る。学習規律（島小ルール）の一層の定着を図る。外部講師の活用を推進する。 3 放課後学力補充やチャレンジタイム(ドリル)など、日常的な学力充実に係わる取組を推進する。（学力の検証方法の開発、学校支援ボランティアの活用） 4 心の教育を充実させる。廊下歩行、呼び捨て（言葉使い）、挨拶など、課題を焦点化した取組を継続する。 5 登下校など地域と一体となった安全の取組を進める。保護者、地域の安全ボランティアの組織強化を図る。 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立三津小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
一人一人の良さや可能性を引き出し、基礎基本の徹底を図ると共に自ら学ぶ意欲、思考力、表現力、知識・理解などの資質や能力の育成を図る。		全校的な取り組みをやり切ることで、全校児童の絆が深まり、明るく元気で学習面においても生活面においても意欲的な児童が増えたが、主体性や集団の中での個のあり方に依然として課題がある児童もいる。	「熱く燃えてチャレンジしやりきる」のキャッチフレーズのもと、教育目標「小規模校の特性を生かし、かしこく やさしく たくましい子の育成」に向けた達成目標の具現化を目指す。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着と伸長 活用力の育成 家庭と連携した家庭学習習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査、基礎学力診断テスト等を実施し、分析結果を指導に生かす。 国語科の授業研究を通じた指導方法の工夫改善 全校百マス(足し算、引き算、かけ算)計算大会の実施 校内漢字検定認定試験の実施 家庭学習の手引き作成と家庭学習がんばり週間(学期二回) 	<p>△活用力の定着度をみる学力診断テストにより活用力の向上が実証されたが、依然として課題のある児童もいる。</p> <p>○児童の学習意欲や学習態度が向上し、8割以上の児童が平均点以上である。</p> <p>○百マス計算は、全校児童が大幅に時間短縮することができた。</p> <p>○漢字検定は、過去の問題を使用して全校的に認定試験を実施した結果、全校児童が合格した。</p> <p>○家庭学習がんばり週間を実施し、家庭の協力があり家庭での目標時間を全員が達成し、内容の向上も図ることができた。</p>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 存在感や充実感のある学校生活にする全校活動の推進 特別活動の充実と発展 	<ul style="list-style-type: none"> チームや個人の目的を明確にし、日々言語による振り返りを大切にしてやり切らせ、一人一人に成就感を体得させて、自発的・自主的な取組にする。 教師と児童、及び児童相互の望ましい人間関係を育てる。 	<p>○、全校活動が充実することにより成就感を体得させることができた。</p> <p>○児童自ら考えさせ、正しい規範や協力、思いやりの心を育成することができ、生徒指導上の問題行動は起きなかった。</p> <p>△全校児童数が6名減の21名となり、チーム活動の活性化を図ること</p>

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携した基本的な生活習慣の確立を図る。 ・児童の健康実態を把握し、課題を早期に解決する。 ・事故災害の実態を把握し、安全管理の徹底を図る。 ・日常的な体力づくりを徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣化を図る。個別指導を含め家庭との連携を強める。 ・保健だよりを発行し保護者への啓発を図ると共に、掲示物を工夫し、健康に向けての実践的態度の育成を図る。 ・事故災害は軽微なものでも共通理解し教訓化する。 ・安全点検の徹底を図る。 ・始業前の体力づくりをやり切る。 	<p>△家庭と連携し取り組みを強めたが「早寝・早起き」は63%の達成率であった。高学年は家庭学習も多く、9時半までという目標設定を考えていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手作りの教材で実践力の向上を図った。歯磨きは、全児童3分間しっかり磨くことができるようになった。 ○休み時間等活発に活動したが、安全点検の徹底により大きなけがをする児童はいなかった。 ○朝ダッシュ、マラソン、縄跳びと年間を通して体力づくりに取り組むことができ、成果の一つとして京丹後市小学生駅伝競走大会で準優勝した。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を正しく理解する心を育てる。 ・児童の実態を的確に把握して、個々の特性や能力に応じた適切な指導、援助を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人の話を聞く。 ・個々の能力に応じた適切な指導を行う。 ・組織として対応するため、教育相談部の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○耳が聞こえない人が、努力により話したり絵を描いたりする話を聞き、希望を持ち続けて努力した人に感動し「やればできる」ことを学んだ。 <p>△気になる児童の実態交流を毎月交流しているが、個に応じた指導に生かすことが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎月教育相談日を設定し、組織的に対応することができ不登校の未然防止につながった。
研修研究	<ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章における一人学び・学び合いの指導を通して、確かに読み取り、豊かに表現する児童を育成するための研修と指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読むことの低中高学年別指導内容を明らかにする。 ・授業研究会（全体・ブロック）で「一人学び」の場を授業に位置づけることと「学び合い」を視点にした研究を進める。 	<p>△重点研究3年目で、児童には学び方、教師には学ばせ方が定着し、「一人学び」を生かした「学び合い」が前進したが、さらに深めることが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究授業だけでなく、事前の公開授業を通した事前研究が深まった。
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員がPTA活動や専門部活動に積極的に関わる。 ・地域の人材の積極的活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・原則的に会議を持ち、活動内容について十分な打ち合わせを行いPTA活動の活性化を図る。 ・授業や行事等で地域の人材や施設を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA 行事には全員参加はもちろんのこと家族での参加が多く、活発なPTA活動を推進していくことができた。 ○学校支援ボランティア等多くの方々にお世話になって、教育活動を充実することができた。
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 チャレンジ「本年度の教育目標」（身に付けさせたい力）の内容充実を図り、一人一人の児童が目標達成するよう、学校・児童・保護者一体となって推進する。 2 複々式学級のあり方についての研修を深め、一人一人の課題を明確にし、個に応じた指導を推進する。 3 基礎的・基本的な学力の習得と活用力の育成を図る。 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立郷小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「心やさしく何事にも粘り強く活動する児童の育成」 ～元気・やる気・根気のある児童の育成をめざして～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら進んで学習に向かう子 (学ぶ意欲・考える力・話す聞く力) ○ 思いやりの心を持つ子 (相手の気持ちを考える心・命や体を大切に作る心) ○ たくましい体を持つ子 (健康な体・挑戦する力・継続する力) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全校的な学力の定着を図るための補習や学力充実タイムの取組から、少しずつ学習意欲の向上が感じられる。 ○ 児童の学校生活から規範意識の高揚が感じられる場が増えてきた。 △ 学力向上に向けての取組がマンネリ化しないように常に工夫改善を図る。 △ 基本的生活習慣の向上に向けてさらに家庭との連携を強化する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 全ての児童に確かな学力を身に付けさせるために、学力実態を把握し、個々の課題に応じた指導の充実を図る。 (2) 全ての教育活動を通して、人権意識の高揚を図る。 (3) 朝マラソンや縄跳びなどの取組を通して体力づくりの推進や心の強化に努める。 (4) 地域や保護者から信頼される学校づくりの推進を図る。 (5) 基本的生活習慣の向上を目指し、保護者とともに生活習慣の改善に取り組む。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての児童に基礎基本の学力を身に付けさせる。 ・ 一人一人の課題に応じた指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の授業の充実を図ることを最も大切にし、授業の中で基礎基本の習得を図る時間をとる。 ・ 基礎学力充実タイムに基礎的な学習を繰り返し指導することですべての学習の基礎基本となる部分の徹底を図る。 ・ 個別補習の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習規律の向上が図られ、落ち着いた環境の中で授業に臨んでいる。スキルの学習については一定の成果が見られる。 △ 家庭と連携し、個々の児童の学力向上に向けた取組の工夫を図る。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規範意識を培うため、学校のきまりを活用し、指導の徹底を図る。 ・ 思いやりの心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あらゆる機会を捉えて、児童にやりきることの大切さを指導するとともに、授業規律や生活態度をよりよくするために指導の徹底に努める。 ・ すべての指導の基盤は安定した学級経営にあることを理解し、生徒指導の3機能を意識した指導に努める。 ・ 児童会の活動を中心に異年齢集団の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童や保護者に学校の決まりの徹底を図ることで規範意識の向上が随所で伺える。 ○ 異年齢活動の取組を通して思いやりの心が育っている。 △ 基本的生活習慣の向上に向けて家庭との連携を一層深める。

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・全教育活動を通して、健康で安全に生活できる力の育成に努める。 ・安全指導を徹底し、事故の防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝マラソンや縄跳びの取組などを通して、自己の健康づくりへの意識の高揚を図るとともに、苦しいことから逃げない強い心の育成に努める。 ・春秋の2回交通安全教室を実施する。 	<p>○心の強化や体力づくりをねらった朝マラソンの取組について児童の意識の高揚が図られた。</p> <p>△計画的に安全教育が推進できたが、普段の生活の中に安全教育を定着させるための工夫をする必要がある。</p>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級在籍児に対する丁寧な指導で、学力の向上を目指すとともに、特別な支援が必要な児童の実態把握とその指導の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級で学ぶ児童一人一人の個別指導計画を作成し、指導の充実を図るとともに、気になる児童の交流を定期的に設定し、学級の実態、個々の実態を明らかにし、指導の方向性を出す。 	<p>○特別支援学級在籍児が集中して学習できる環境づくりに努めたり、指導方法の工夫に努めたりすることで、少しずつできることが増えてきた。</p> <p>△個別の指導計画のさらなる充実を図り、指導に生かす。</p>
研修（資質向上の取組）	<ul style="list-style-type: none"> ・重点研究「算数科」に関わる研究授業を計画的に進め、視点を明確にした研修をすることで指導力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を計画的に進める中で、重点教科の指導法についての研修を進める。 ・自主的な授業公開をすることで一人一人が指導力の向上を意識して研鑽する。 	<p>○重点研究の研究授業を計画的に進めることができた。</p> <p>○研究授業では参観の視点を明確にしながら研修が深まった。</p> <p>△進んで公開授業をすることにまだまだ抵抗が感じられる。</p>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼される学校づくりの推進をめざし、保護者、地域との連携を深める。 ・ホームページなどを活用して情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連絡を密にし、学校と家庭が同じ方向で指導できるように努める。そのためにも、学校からの様々な文書や学級通信などで学校や学級の様子をしっかりと伝える。 ・ホームページを定期的に更新することによって、子ども達の様子について共有できるように努める。 	<p>○保護者との連絡を丁寧に行うことで保護者との関係づくりを大切にしてきた。</p> <p>○学校の様子を知ってもらうために様々な機会に情報発信をしてきた。</p> <p>△ホームページの更新が十分でなかった。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面では基礎基本の徹底を図り、一人一人にしっかりとした学力を付けることを最重点課題とする。 ・学力向上や基本的な生活習慣の定着のために、家庭との連携をさらに深め、指導の充実を図る。 ・特別支援教育の充実を図るために、学級実態・児童実態を細かく把握し、一人一人が大切にされる学校経営・学級経営を目指す。 ・保護者、地域との連携を深めるために、様々な報提供手段を活用し、信頼される学校づくりに努める。 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立橋小学校]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>○児童・保護者及び地域の期待に応える教育を推進する。</p> <p>○新しい時代を生きるにふさわしい児童の育成を目指す。</p> <p>○生涯にわたる学習の基礎を培うとともに、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を目指した教育実践を推進する。</p> <p>○創意ある教育計画、進行管理及び評価を行い、協働体制により教育実践を推進する。</p> <p>○家庭・地域社会との連携を深め、諸制度・組織を活用して、信頼と協力を基本にした教育活動が展開できるよう努める。</p> <p>【めざす児童像】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. たくましく元気な子 (体) 2. 知恵を出しがんばる子 (知) 3. なかよくやさしい子 (徳) 	<p>○本校学校運営システムによる組織的・効率的・機能的な学校運営が行えた。</p> <p>○基礎学力定着状況をふまえ、指導方法の工夫、授業改善、家庭との連携を行い、課題克服に向けた多面的な取組を行うことができた。</p> <p>○異年齢の豊かな人間関係の育成に取り組めた。</p> <p>○課題の焦点化を図り、課題解決に向けた学級経営が行えた。</p> <p>○生徒指導部がセンター的な役割を果たし、家庭との連携を図りながら、課題解決を図ることができた。</p> <p>○橘中、PTA、地域の各団体との連携充実が図られた。</p> <p>△さらに、言語能力・課題解決力・表現力の育成をめざした個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>△さらに、全教育活動を通じて、主体性、表現力、人間関係を結ぶ力を伸ばさせる指導の充実を図る。</p> <p>△さらに、日常的に地域の教育力を学校教育に活かすため、連携の在り方の工夫を行う。</p>	<p>【めざす学校像】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学力の充実・向上、個性・良さ・可能性を伸ばす学校 2. 家庭・地域との連携、特色ある開かれた学校 3. 児童が輝き、地域の信頼、活力と潤いのある学校 <p>【めざす授業像】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童・地域の実態をふまえ、全教職員が共通理解・内面理解した指導 2. 基礎・基本を徹底するため、個々の児童に視点をあてたきめ細かで丁寧な指導 3. 授業改善に務め、各教科の目標に準拠した指導 <p>【全教育活動で子ども達に育みたい資質・能力】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決する力 2. 思いや考えを自分の言葉で豊かに表現する力 3. 学び合い・励まし合い・支え合う豊かな人間関係を結ぶ力 	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<p>児童の学力実態や学習状況を的確に把握し、基礎的・基本的な学力を身につけさせるとともに、児童の良さや長所を生かし、児童が自ら学ぶ意欲と自ら考える態度の育成に努める。</p> <p>学習指導要領に基づく教科・道徳・特別活動及び総合的な学習の時間の指導内容の充実を図る。そのため、指導方法及び授業改善を積極的に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力診断テスト結果分析に基づき、学習意欲の向上、基礎学力の定着を図るための授業改善に取り組む。 ・少人数指導(算数科)による授業改善に取り組む。 ・算数科による授業研究に取り組み、算数科の基礎基本の定着、思考力を向上させるための授業改善に取り組む。 ・全校補習、昼ドリル時間、朝読書の充実を図るために教育課程編成の工夫を行うとともに、組織的指導体制を整える。 ・定期的に効果測定を行い、早期回復指導に取り組む。 ・全教育活動で言語活動の充実(書くこと・読むこと・読書)を図る。 ・家庭訪問、連絡ノート、懇談会、各たよりにより家庭との連携を図り、生活習慣、家庭学習課題の改善に取り組む。 	<p>○基礎学力診断テスト結果分析、学期毎の基礎学力達成状況をふまえ、早期に、個に応じた学習課題克服に向けて取り組み、基礎学力の定着を図ることができた。</p> <p>○算数科の重点研究により、算数科の基礎・基本の定着を図り、思考力を伸ばす授業づくりが行えた。</p> <p>○算数科を中心とした少人数指導、全校体制による個別補習、言語活動の充実に向けた取組により、個に応じたきめ細かい指導を行い、基礎学力の定着を図ることができた。</p> <p>△さらに、日々の授業改善、効果測定に基づく個に応じた即時回復指導についての工夫、徹底を図る。</p> <p>△家庭と連携し、家庭学習の充実を図る。</p>
生徒指導	<p>人権尊重という観点に立ち、教育活動全体を通じて、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り、自ら課題を解決する意欲と実践力を育成する。また、「いじめ」「不登校」等の諸問題に対しては、日常的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎に実施する学級経営評価の充実を図る。 ・学級経営の安定を図るための事例研究(学習集団の育成・人間関係づくり・自治的活動)に取り組む。 ・思いやりの心と豊かな人間関係を育むために、多様な異年齢活動に取り組む。 ・係・班活動等により、自主的、実践的態度の伸長を図る。 ・定例生徒指導部会を充実させ、問題行動事象対応、いじめ・ 	<p>○年間を通して多様な異年齢活動が取り組み、日常的にも異年齢の豊かな人間関係の育成の成果が見受けられた。</p> <p>○各学級課題克服に向けての事例研修に基づく学級経営実践により、各学級課題の克服を図ることができた。</p> <p>○生徒指導部のセンター機能の発揮による課題把握・解決方針提起、日々の発信等により、生徒指導課題について継続的・組織的に取り組み、改善を行うことができた。</p>

生徒指導	な教育相談活動を行うとともに「心の教育」の充実を図る。	不登校未然防止、日常的課題事象に対し、生徒指導部のセンター機能の強化を図り、全校体制による組織的・継続的な推進を行う。 ・生徒指導上個別な支援が必要な児童について、支援会議を持ち、具体的な指導内容の確認、支援方策・支援体制・家庭との連携内容の確認を行い、組織的に取り組む。	○組織的な生徒指導により、いじめ・不登校の未然防止、事故・怪我を減少させることができた。 △さらに、気持ちのよい挨拶、相手を大切にした言葉遣い、安全な登下校の仕方、家庭での基本的な生活習慣の確立など、個別な課題克服に向けての指導を充実させる。 △学級・児童会における自治的な活動を充実させる。
健康・安全	生涯を通じて体育・スポーツ活動に親しむことができる能力や態度を育成するとともに、体育・運動能力の一層の充実を図り、健康で安全な生活を営む、たくましい実践力を育成する。	・年間を通して体力づくりに取り組む。(朝マラソン、朝縄跳) ・年間を通して、計画的に食育・保健指導に取り組む。 ・生活点検を実施し、生活改善に取り組む。 ・より良く生きるため性教育・薬物乱用防止教育に取り組む。 ・施設点検・管理を徹底し、安全指導に取り組む。 ・様々な危機状況を想定した、実践的な避難訓練に取り組む。 ・登下校の安全を守るため地域・PTAと連携して取り組む。	○年間を通して体力づくりの取組を充実させることができ、基礎体力の向上を図ることができた。 ○危機管理意識の高揚と、対応力を高めるための連携・訓練を行い、危機管理力の向上を図ることができた。 ○地域連携の充実による地域安全の取組が行えた。 △生活点検結果の有効活用により、就寝時刻の改善を図る。 △生活安全に関わる環境整備・施設整備に取り組む。
特別支援教育	心身の障害の状態や特性に応じ、特別な配慮の下に、障害の軽減・克服を図りながら、個性・能力の伸長とたくましく生きる力を培うとともに、人間尊重の精神を基盤にした「共に生きる心豊かな児童」の育成を図る。	・月1回の支援会議により児童実態の把握を行い、指導・支援の在り方について協議し、全校体制で指導に取り組む。 ・正しい発達障害についての理解、発達障害児童の指導を行うための理論的研修に取り組む。 ・特別支援教育コーディネーターを要に、関係機関と連携を図りながら、個別の指導計画に基づき、個別な配慮が必要な児童への組織的支援を行う。 ・全ての児童が障害のある人を正しく理解するための理解教育、特別支援学校・豊学校との交流学習に取り組む。	○関係機関との連携、定例支援会議により丁寧な児童実態把握を行い、共通理解を深めながら、個別な支援が必要な児童についての個別支援の充実を図ることができた。 ○発達障害理解・特別支援体制の充実に関わる研修を行い、個に応じた充実した支援を行うことができた。 ○計画的な理解教育、交流学习により、理解教育の充実を図ることができた。 △校内の特別支援教育体制の整備、個別の指導計画の充実を図り、個に応じた支援の充実を努める。
研修(資質向上の取組)	使命と責任を自覚し、豊かな人間性、広い社会性、高い専門性を身につけるための、不断の研鑽に努める。	・年間研修計画により、教科指導力、生徒指導力の向上、対応力向上をめざした理論研修・事例研修に取り組む。 ・今日的課題・新学習指導要領に関わる研修に取り組む。	○年間計画に基づく専門性・対応力の向上に係る理論的研修・実践的研修が実施でき、実践力の向上に繋がった。 △さらに教科指導・学級経営・今日教育課題に関わる研修を充実させ、専門性の向上を図る。
保護者・地域との連携	PTA、地域社会と子育て課題を共有し、その克服を図る。地域の教育資源や人材を学校教育活動の充実に活用するための、保護者・地域社会に開かれた学校づくりを推進する。	・迅速、的確、誠実で丁寧な家庭との連携を図り、子育て課題克服に向けて協力して取り組む。そのための電話連絡、家庭訪問、各たより、学校HP等の充実を図る。 ・地域の教育素材、人材を学校教育の充実に活かしていくための連携の在り方を探り、仕組みを構築していく。 ・コミュニティ・スクール推進事業調査研究の充実を図る。	○連携課題を明確にして、個別に迅速で丁寧な家庭との連携、発信のねらいを明確にした各たよりの発行、学校HPの毎日更新が行えた。 ○PTA、地域の各団体との連携、コミュニティ・スクール推進事業調査研究の充実により、地域連携の仕組みを構築することができた。 ○地域の教育素材・人材を活用し、教育活動が充実できた。
次年度に向けた改善の方向性	【推進】 ・運営会議、企画委員会、分掌部会の計画的運営と各会議間の連携の工夫を行い、組織的・効率的・機能的な教育活動を行う。 ・学校課題を克服するために、さらに学校運営システムの整備を図り、組織的・効率的・機能的なPDCAマネジメントによる学校運営を行う。 【教育活動・研修活動】 ・国語科を中心に、全教育活動で言語能力の向上をめざした教育活動の充実を図る。算数科を中心に、授業改善の取り組みの充実を図る。 ・課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力を育むための教育活動の充実を図る。教科指導・生徒指導力・対応力の向上を図るための実践的研修を充実させる。 【連携】 ・コミュニティ・スクール推進事業調査研究の成果を引き継ぎ、学校教育の充実に向けた地域の教育力の活用を図る。		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立豊栄小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成</p> <p>・全教職員が一致した指導体制のもとに、保護者や地域の人たちと連携し、心豊かでたくましく、意欲的に学ぶ児童を育成する。</p>		<p>○重点教科を算数科とし、算数的活動と言語活動を関連させた学習が定着しつつある。</p> <p>○基本的な生活習慣をつけるために家庭と連携した取組を実施し、意識化が進んだ。</p> <p>△規範意識がやや乏しい。</p> <p>△地域安全ボランティア組織の再構成を行う必要がある。</p>		<p>めざす児童象 と：友達と仲良くする よ：よく考え、よく学ぶ さ：最後までがんばる か：体を鍛える</p> <p>を全教育活動の柱にする。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題（自己評価）	
教育課程 学習指導	<p>・児童一人一人の学ぶ意欲を育て学力の充実と向上を図る。</p>	<p>・重点教科を算数科とし、算数的活動を通して筋道立てて考える力の育成をめざす。</p> <p>・言葉を大切に授業を行い、表現力、伝える力とともに、学び合う学級を育てる。</p> <p>・基礎学力の充実を図るために、朝読書、ドリルの工夫・改善、家庭学習の推進、昼休みや放課後、長期休業中の補充学習にも取り組む。</p>		<p>○算数科の研究を進め、算数的活動や言語活動との関連において、児童の学力・意欲の向上が見られた。</p> <p>○各種学力調査の分析を基にドリルタイムを焦点化し、成果を測るため2週間毎に効果測定を行った。正答率が向上し、学年によっては50ポイント以上の改善があった。</p> <p>○年度末に行った観点別到達度学力検査（DRIT）の結果を見ると、全学年が全国平均並みか10点以上上回っており、基礎学力の定着が見られる。</p> <p>△各種学力調査から、活用する力や家庭での学習習慣等に課題があり、解決に向けて取組を継続している。</p>	
生徒指導	<p>・児童の実態を正しく把握し、規範意識を高め、積極的に行動する子どもを育てる。</p>	<p>・実態交流を日常的に行い、いじめ、不登校につながる兆候を見逃さず、組織的な対応を行う。</p> <p>・集団生活のルールやマナーの指導を行い規範意識を培う。</p> <p>・家庭、保護者との連携を充実し、基本的な生活習慣を体得させ、生活のリズムを確立させる。</p> <p>・日常生活での優しい言葉づかいや、挨拶の励行を指導する。</p>		<p>○毎週、気になる児童の様子を交流し、実態把握と早期対応に努めた。いじめ・不登校等の事象の未然防止に効果があった。</p> <p>○每学期「さわやか点検」と「家庭学習がんばり週間」の取組を行い、家庭とともに、生活リズム・学習習慣の確立に努めた。</p> <p>△日常生活での挨拶については、児童会を中心に取り組んでいるが、家庭・地域を巻き込んで継続的に指導していかなければならない。</p>	

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> 健康で安全な生活を営む実践力を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に保健指導を進める。（歯の衛生、喫煙、飲酒等） 生活点検を実施し、健康的な生活習慣の確立をめざす。 給食の衛生管理と食に関する指導を行う。 自転車教室、避難訓練、防犯訓練等、安全指導を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的に保健指導を進め、児童の健康管理に成果があった。風邪・インフルエンザの流行も最小限で食い止めることができた。 ○豊栄地区子どもを守る会のボランティア登録者を3年ぶりに確認し、新たにボランティア登録者の募集も行った。また、京丹後市学校支援ボランティアへの登録も呼び掛けた。 ○1学期の自転車事故を契機に、PTAと一緒にヘルメット着用の取組を始め、着用児童が飛躍的に増加した。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校をめざし、保護者、地域と協力、連携しあう学校運営を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> リーフレット「豊栄小の教育」を作成し、PTA総会や学校説明会で保護者に説明し、学校への理解につなげる。 学校だよりの全戸配布で、学校理解につなげる。 地域人材、施設、設備を活かした学習活動を積極的に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA総会などの場で、リーフレットや保護者アンケート結果などの資料を基に説明し、理解を得られた。 ○学校ホームページを月2～3回更新し、最新情報を伝えることができた。 ○総合的な学習の時間等で、地域・保護者から多大なる協力が得られ、学習活動を充実させることができた。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 支援の必要な児童一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育課程を編成し、学ぶ意欲と基礎学力の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援が必要な児童の実態を把握し、関係機関と連携した教育相談を継続する。 個別の指導計画による個に応じた指導を進める。 保護者への啓発を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的、継続的に個に応じた指導を推し進めることにより、基礎学力や学習意欲の充実・向上が見られた。 ○発達上の課題のある児童へ教育相談や発達検査受診を勧め、学校・保護者とも指導に役立てることができた。 ○様々な場を利用し、保護者への啓発を行った。
研修(資質向上の取組)	<ul style="list-style-type: none"> 学級経営力、授業力を高めつつ、互いに学びあい、高まりあう教師集団を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研を最大の研修の場と位置づけ、研修時間を確保し、計画的に授業力を高める取組を行う。 外部からも講師を積極的に招聘し、教職員の専門性を高める研修を継続して行う。 外部研修を積極的に受講する。また、研修で学んだことは復講習を行い、本校の実践に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ベテラン・若手教員が上手にかみあうことによりグループ研が充実し、授業改善が進んだ。 ○高等学校教諭や京都府総合教育センター指導主事を講師に招いて研修会を行い、算数・体育・書写等の指導方法の研修が深まった。 ○音楽フェスティバル出演を契機に歌唱力の向上や友達関係の深まりが見られた。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ①新学習指導要領の完全実施を受け、授業時数を確保するとともに、授業研究をさらに進め、基礎学力の定着と「活用する力」の育成を目指す。 ②児童の安全確保と学習内容の充実を図るため、これまで以上に「地域に開かれた学校づくり」「地域に信頼される学校づくり」を進める。 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立間人小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>○みずから学ぶ子 (知) ○友達を思いやる子 (徳) ○生き生きと表現する子 (体)</p>		<p>○工夫した授業で児童の学習意欲を高めたり、自分で考えて問題を解決しようとしたりする習慣が身に付いてきた。 ○学級や学校の取組が活動的に進められた。 ○校内組織の連携で不登校やいじめを未然に防止できた。 ○規範意識を少しずつ高めることができ、落ち着いた学校生活にできつつある。 △新学習指導要領の実施に向けた教育課程の編成を行う。 △児童一人一人が存在感を実感できる学級づくりを行う。 △指導方法を工夫・改善して児童一人一人に基礎学力を身に付けさせる。 △児童の規範意識をさらに向上させる。 △旧竹野小学校児童に安心して学校生活を過ごさせる。</p>	<p>「学力を付ける」「豊かな心を育てる」「健康な体を作る」ことを目標に、達成目標を決めて取り組む。 (1)読み・書き・覚え、自分の考えを生き生きと表現 (2)元気な外遊びといろいろなことに挑戦 (3)友達や人の気持ちを思いやり、仲良く行動 (4)周りの動きや時間を意識した行動</p>
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<p>(1)新学習指導要領に基づき、次年度の教育活動を行う教育課程を編成する。 (2)指導方法の工夫・改善で基礎・基本の学力を付ける。 (3)少人数加配を活用して学力を向上させる。 (4)読書活動を進める。 (5)旧竹野小児童が安心して学習できる。</p>	<p>○教職員で研修を行い教育課程を編成する。 ○授業を構造的に捉えて授業改善を図り、学力を向上させる。 ○加配を活用し、算数の授業改善や学習環境を整備し、担任と共に補習を行い、児童の学習欲を高める。 ○集中して読書を行い、学習等の基盤づくりを行う。 ○個に応じた丁寧な学習指導を行う。</p>	<p>○予定通り、次年度に向けた教育課程が編成できた。 ○授業等で児童の学習意欲を高め、自力で問題を解決できるようになり、学力向上につながった。 ○書いてまとめることを繰り返すことで書くことに自信がつき、的確に書けるようになった。 △意見に理由を付けて発言する力を伸ばす。 △家庭学習に課題が残った。 ○集中して読書ができた。 ○旧竹野小児童は当初、多人数になる戸惑いがあったが、しばらくすると落ち着いて学習できるようになった。</p>

生徒指導	<p>(1) 児童と教師、児童と児童の信頼関係に基づいた学級づくりを行う。</p> <p>(2) 不登校、いじめを未然に防止する。</p> <p>(3) 存在感や達成感のある学校生活を過ごさせる。特に旧竹野小学校児童の様子に留意し、家庭と連携した指導を行う。</p>	<p>○朝の会や終わりの会を児童が進めるように支援する。</p> <p>○児童の係活動による取組を機能させる。</p> <p>○学校のきまりを守る。</p> <p>○関係組織と連携して不登校やいじめは早期発見と早期対応で未然に防ぐ。</p> <p>○児童の自発的・自主的な活動を大切に取組を進め、一人一人に存在感を持たせる。</p> <p>○旧竹野小学校児童に留意した学級づくりを進める。</p>	<p>○教師の力を支えに、児童が自力で進められるようになってきた。その結果良い関係が築け、学級や学校全体が明るく、活動的になってきた。</p> <p>△規範意識を高められつつあるが、まだ不十分である。</p> <p>○関係組織と連携して不登校、いじめを未然に防止できた。</p> <p>△児童が学校生活を良くしていくための方法を考えて取り組み、改善することに課題がある。</p> <p>○旧竹野小学校児童に関わる問題は家庭と連携して解決できた。</p>
健康（体育）・安全	<p>(1) 心身ともに健康な体づくりを行う。</p> <p>(2) 健康な生活を創る。</p>	<p>○生命の尊厳・人権尊重を基盤とした学級指導と保健授業を行う。（心と体の教育等）</p> <p>○健康な生活づくりの取組を行う。（学校生活・家庭生活点検等）</p>	<p>○教科学習等とクロスさせた性教育の指導と年間を通した人権教育で児童の意識が少しずつ高まってきた。</p> <p>△学習基盤となる基本的な生活習慣確立のために、PTAや保護者と連携した取組に課題が残った。</p>
特別支援教育	<p>(1) 障害のある児童個々の教育的ニーズに応じた教育課程を編成し、自分で生きていく力を育てる。</p> <p>(2) 特別な教育的支援を必要とする児童に校内体制の確立を図り、実態に即した指導を組織的に展開する。</p>	<p>○特別支援学級・通級指導教室の指導の充実を図る。 ・個別の指導計画を作成と指導・個別の支援計画・基礎学力と社会性を身に付けさせる指導・家庭との連携</p> <p>○普通学級の特別な教育的支援の必要な児童への取組を行う。 ・アセスメント・個別の指導計画、指導上配慮を要する児童の状況把握と組織的な対応、家庭との連携、関係機関との連携</p>	<p>○家庭との連携を図りながら、個の課題に応じたきめ細かな指導で基礎学力の充実を図ることでできた。</p> <p>○普通学級の特別支援の必要な児童の指導を効果的に行うことができた。</p> <p>○校内組織が機能し、関係機関とも連携できた。</p> <p>△個々の課題克服に向けた取組に課題が残った。</p>
危機管理	<p>(1) 児童・教職員が安心して学校生活が過ごせる。</p>	<p>○どんな些細なことも教職員で情報の共有化を図り、即座に組織で対応して解決する。</p> <p>○教職員の危機意識を高める。</p>	<p>○常に情報を共有化して問題に対応できた。</p> <p>○組織で解決することを基本に据えて解決できた。</p> <p>△教職員の危機意識に一部課題がある。</p>
信頼関係の構築	<p>(1) 学校が保護者や地域との連携を密にし、信頼関係を築き上げる。</p> <p>(2) 地域の自然や人々から校区の素晴らしさを学ぶ。</p>	<p>○学校だより、学級通信等で学校や学級の様子や児童の様子を家庭や地域に知らせ、理解と協力を得る。</p> <p>○PTA・学校評議員・民生児童委員・守る会と連携して取り組む。</p> <p>○生活科・総学などで地域から学ぶ取組を進め、地域の人材の活用を図る。</p> <p>○教師が地域の行事等への積極的な参加をする。</p>	<p>○学級通信や学校だより等で学校の様子や児童の様子を保護者や地域に伝え協力を得られた。</p> <p>△情報発信に不十分さがあった。</p> <p>○地域の方に外部講師や支援ボランティアとしてお世話になり、効果的な学習ができた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>①新学習指導要領に基づいて編成した教育課程を確実に実践する。</p> <p>②授業改善をさらに推進して、学力を向上させる。</p> <p>③児童一人一人が楽しく学校生活を過ごさせるために、規範意識をより一層高める。</p> <p>④特別支援教育において個々の課題を解決する。</p> <p>⑤家庭、地域と信頼関係の構築を図る。</p>		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立宇川小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「ともに学びあう宇川の子の育成」に努めるとともに保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。		○国語科の研究を通して、指導法の工夫や改善を図ることができ、基礎・基本の定着につなげることができた。 △全体的には学力は上がったが、学年や個々にも課題があり、一層の努力が必要である。	1 基礎学力の充実と向上 2 学校大好き、いじめ・不登校の未然防止 3 信頼される学校づくり 4 小中連携の推進
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	(1) 基礎学力診断テスト・全国学力学習状況調査・CRT・DR T等の実態把握をし、基礎学力の向上を図る。 (2)「わかる授業」を目指し、授業改善を行う。 (3)一人一人の学習状況に応じた指導を充実する。 (4)積極的な小中連携で学力向上へ向けての取組を行う。	・児童の学力実態から個に応じた指導と回復を図り、年度末には検証テストも実施し、今後へも生かす。 ・市の教育実践モデル校の指定を受け、国語科「話す力・聞く力」の言語力の育成を目指す。特に各担任が、年1回以上の研究授業を行い、実践力を高める。 ・ドリルタイム、休み時間・放課後の補習・夏季休業中での算数補習（5日間）の充実を図る。 ・朝読書等の読書活動を推進する。 ・家庭学習習慣確立のため家庭学習の手引きの配布、家庭学習がんばり週間の設置など保護者との連携を行う。 ・小中連携を活発化し合同研修会、フリスタ、出前授業、参観等を行う。	○検証テスト結果等からも基礎・基本の定着状況が改善しつつある。特にドリルタイム・放課後での補習・夏季休業中の補習では組織的な指導体制により個に応じた指導の充実も図ることができた。 ○国語科「話す力・聞く力」の研究では、各教員がこれまで以上に課題を意識した授業ができ、授業改善につなげることができた。 △授業の質を更に高め、児童や保護者に一層見える学力アップを図る必要がある。 △家庭での学習習慣の改善を図っていく必要がある。 ○小中連携で年度はじめに三者同士で連携し学力充実、生徒指導、教育相談等を含め連携の強化ができた。
生徒指導	(1)児童の内面理解に努め、いじめ・不登校の未然防止を図る。 (2)望ましい集団活動を通して社会性を育てる。 (3)生徒指導の三機能を生かした学級経営の充実に務める。	・生徒指導部会と教育相談部会の定例化を図り、共通理解のもと早期対応と課題解決を図る。 ・異年齢集団活動をとおして好ましい人間関係の育成を図る。 ・児童と児童、児童と教師との信頼関係の構築に努め、存在会・充実感のある学級経営に心がける。 ・保小中連携をはじめ家庭や各関係機関との連携を図る。 ・気持ちがよい「あいさつ」がしっかりできるようにする。	○内面理解や早期対応に心がけ、不登校0が継続し更に関係機関との緊密な連携もできた。 ○日常生活や行事等を通して、上級生が下級生の面倒をよく見るなど、心の教育に役立っている。(宇川小の伝統) △ 学級経営では、学級によっては不十分な所もあり、更に児童の内面に迫る指導や保護者との連携を密に心がける必要がある。 ○「あいさつ」は、学校生活だけでなく登下校中でもよくできるようになってきた。

健康（体育）・安全	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>(2) 新体力テストの結果を踏まえ、体力増進に務める。</p> <p>(3) 校内外における事故防止と安全の確保に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期はじめに各家庭との連携した生活習慣アンケートを実施し、家庭との連携を図る。 ・朝ランニング（春・秋）、なわとび（冬）を積極的に実施し、体力向上に努める。 ・練習過程を大切に、各種大会へ積極的に参加をする。 ・必要に応じた避難訓練（火災・地震・不審者）を実施する。 ・保健だより等により、健康の大切さや予防に心がけさせる。 	<p>○生活習慣アンケートは、家庭と連携して取り組み、基本的な生活習慣の確立に役立った。</p> <p>○各種大会へ向けて校内体制で取り組み、成就感、達成感等を味わわせ体力向上や意欲が高まった。</p> <p>○朝ランニングやなわとび等で積極的な体力づくりができた。</p> <p>△不審者対応訓練では、教師研修も更に改善が必要である。</p>
研修（資質向上の取組）	<p>(1) 市教育実践モデル校としての校内研修を活性化し、指導力向上へつなげていく。</p> <p>(2) 小中連携により生徒指導、教育相談等の研修を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重点教科「国語」で授業力向上を組織的に行う。 ・今日的教育課題に関わる研修を行う。 ・小中合同研修会の充実を図り、職員同士の交流を積極的に取り組む。 	<p>○担任全員が研究授業を行い、低学年・高学年グループで教材研究・指導案作成・事後研究会等を実施し、実践力の向上につなげることができた。</p> <p>○体育科の「体ほぐしの運動」の実技研修をとおして授業改善につなげることができた。</p> <p>△保小中合同の研修会を来年度は開催したい。</p>
特別支援教育	<p>(1) 特別な教育支援が必要な児童の個性や能力の伸長を図る。</p> <p>(2) 特別支援学級や障害のある児童への理解を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育的ニーズに応じて、個に応じた指導の充実を図る。 ・全学級での理解教育を進める。 ・就学指導において、保護者・中学校・特別支援学校・関係機関との連携により、児童の適正な就学を図る。 	<p>○特別支援学級の指導が充実し、児童の確かな成長が見られ保護者等の信頼につながった。</p> <p>○全ての学校行事等に参加し、特に、修学旅行に参加できたことは大変よかった。</p> <p>△一部に学校と保護者とが一致した方向で取り組めない家庭があり、今後、連携が更に必要である。</p>
特色ある学校づくり	<p>(1) 地域教材（人的・物的・環境）を生かした教育活動</p> <p>(2) 保護者・地域から信頼される学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宇川地域の特色を生かし、積極的な教育活動を行う。 ・学校行事や対外的な活動（陸上大会・駅伝大会）等に保護者に参観してもらう。 ・保護者や地域へタイムリーな情報を提供する。 	<p>○宇川地域の教材を生かし、特色ある教育活動ができた。</p> <p>○学校行事や陸上大会等の児童の意欲的で真剣ながんばりを見てもらい、信頼される学校づくりに役立った。</p> <p>△学校・学級の教育活動の発信の機会を更に広げたい。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>(1) 教師の授業力を高め、家庭での学習習慣の定着を更に高める。</p> <p>(2) 2年間の国語科での「話す力・聞く力」の成果を踏まえ、「書く力」の実践力を高める。</p> <p>(3) 京都府教育委員会指定（京の未来創造校）「義務教育9年間を見据えた小中連携の研究」（2年間）を充実させる。</p>		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立吉野小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
よい心 をもち、 しっかりと 学習し、 のびのび 運動する子の育成に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく学び合える学校の創造 ・保護者・地域から信頼される学校の創造 		○日々の授業に生かす視点で授業改善が進みつつある。 ○組織的な運営や課題の共有化が図られつつある。 △基礎学力の充実に向けた取組を徹底させる △人権意識、規範意識を向上させる		(1) ねらいを明確にした授業改善を進め、基礎学力の定着を図る取組を徹底させる。 (2) 肯定的な評価を基本に、児童の主体的な活動を推進し、教育活動全体を通して人権意識・規範意識を向上させる。 (3) 保護者や地域の願いを受け止め、積極的に具体的な形で情報発信する。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学力の定着を図る。 ・個に応じた指導の充実を図る。 ・学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間のねらいを明確にした、わかりやすい授業を進める。 <習熟を図る指導の徹底、各時間の達成度の把握> ・チャレンジタイムや補充学習で、学習の定着を図る。 <全校一斉チャレンジの取組の工夫、放課後補習の充実> ・個別の学力実態の把握に基づき、指導方法を工夫する。 <実態に合わせた学習形態の工夫、豊富な教材の準備> ・家庭と連携して学習習慣の定着を図る。 <具体的な情報発信、家庭学習の手引きの活用> 	○国語の漢字学習、算数の計算問題を中心に基礎的な内容の定着に向上が見られた。 ○全校的なドリル学習や補充学習の取組が進み、学習に向かう意欲の醸成が図られた。 ○小中連携の視点で授業規律の見直しを全校で行った。 △個に応じた指導の充実と焦点を絞った授業改善により、基礎学力の充実、向上をさらに進める。 △家庭学習の手引きを活用し学習習慣の定着を図る。	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な友達関係を育成する。 ・人権意識や規範意識を高める。 ・不登校やいじめの未然防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の内面理解に努め、実態や課題を全体で共有し迅速な対応に努める。 ・異年齢活動を充実させ、リーダー性やコミュニケーション能力の育成を図る。 ・肯定的な評価を基本に、良いことはほめ悪いことは叱ることを徹底させ、規範意識を高める。 ・家庭や関係機関との連携を密に、組織的に取り組む。 	○異年齢活動が活性化し、友達関係のトラブルが減った。 ○不登校については保護者、関係諸機関と連携した取組により別室登校できるまで改善した。 △信頼関係に基づく学級経営、人間関係づくりを全校で進める。 △不登校傾向を示す児童の早期発見、内面理解に努め、保護者、関係機関と連携した未然防止の取組を進める。	

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に運動する児童を育成する。 事故の未然防止や安全確保に対する意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の体力づくりを年間通して実施する。 <マラソン（自主申告タイムに合わせた走り）、全校縄跳び> さわやか点検を各学期実施し、生活習慣確立の柱にする。 児童会活動と運動させ、安全を自ら意識する取組を進める。 登下校の安全指導の徹底と、地域のボランティア等と連携した取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○走ることへの意欲が高まり、校内マラソンの新記録続出、市駅伝大会での好記録達成につながった。 ○さわやか点検を、家庭学習ががんばり週間と共に学期ごとに実施し、具体的な形で取組内容を家庭に提案できた。 ○登下校の状態が以前より良くなった。 △学校事故や安全な登下校に関する児童の意識を、さらに高める。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 家庭、地域との双方向の連携を進める。 豊富な地域人材や施設の積極的な活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校や児童の様子等、学校・学級だよりや HP を活用し、積極的、具体的に情報発信し理解を得る。 学校評価、保護者アンケート等を活用し、学校改善に生かす。 地域人材や学校支援ボランティアを積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校、学級だよりや HP 等で、具体的な形で情報発信できた。 ○地域や学校支援ボランティアの方々による学習支援、クラブ活動、学校行事への協力が進んだ。 △学校評価、保護者アンケート等、活用をさらに進める。
研修（資質向上の取組）	<ul style="list-style-type: none"> 授業力の向上に向け重点研究を進める。 各教員の学びを全体で共有化し指導力向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究の成果を日々の授業に生かす。 主体的に学ぶ研修の方法や形態を工夫する。 研修報告を 1 枚プリントにし、全体での共有化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループによる授業研究で確認した内容を、日々の授業に生かした。 ○研修や会議での学びの報告を紙上報告し、共有化した。 △本校の課題に対応した系統的な研究計画を充実させる。
その他、特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 本校の伝統や地域の財産に支えられた取組を充実させる。 就学前から中学校までを見通した保小中の連携を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 吉野フェスタや総合的な学習等、豊富な地域の資源を活用した本校独自の取組を進める。 保小、小中の連絡会議の持ち方を工夫し、内容を充実させる。 学習指導、生徒指導の小中の課題の共有化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○もち米・赤米づくり、吉野フェスタの取組等、豊富な地域資源を活用し、地域の方の協力による取組が進んだ。 ○小中連携の視点で、小学校でつける学習規律の確認を行った。 △保小、小中の連絡会議の機会をさらに増やし、内容を充実させ円滑な校種間連携につなげる。
次年度に向けた改善の方向性	<p>5 年、10 年先を見通した特色ある学校づくりに向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着に向けた徹底した取組の推進 ○家庭、地域との具体的な連携の推進 ○保小中連携の具体化を進める推進システムの構築 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立溝谷小学校]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「心の繋がり」と「確かな学力」を培う</p> <p>1 確かな学力を培う基盤として、豊かなコミュニケーションを重視した教育活動を推進し、児童同士の心が繋がる好ましい友人関係の構築を図る。</p> <p>2 確かな学力をつけるため、言葉を大切にしたい学び合いのある学習活動を重視し、学ぶ意欲や考える力、のびのび表現できる力をはぐくむ授業づくり及び学習環境づくりを進める。</p>	<p>○児童の好ましい友人関係の育成に組織的に迫れた。</p> <p>○校内授業研等の活性化(模擬授業)をとおして研究実践が深まった。また、教員同士が学び合い実践力の向上が図られた。</p> <p>○スキル学習や放課後補習、学力の定着に向けた検証を行い、個に応じた指導をとおして課題克服に迫れた。</p> <p>○配慮する児童の実態把握と児童・保護者への組織的な指導・支援が児童の変容と理解・啓発に繋がった。</p> <p>△学力課題を明確にした一層の授業研究の推進と実践力の向上</p> <p>△「思いやりの心」を基本とした好ましい友人関係の育成</p> <p>△規範意識の醸成と多様な場を活用したリーダーの育成</p> <p>△ねばり強く、最後までやり切る心と身体の育成</p> <p>△家庭・地域との連携の強化と連携内容の充実</p>	<p>1 やさしさ</p> <p>(1) いい声、いい言葉による心がつながるあいさつをする。</p> <p>(2) 一人一人の違いを認め合える思いやりの心をもつ。</p> <p>2 かしこさ</p> <p>(1) 友だちの発表をよく聞いて、自分の意見を発表する。</p> <p>(2) きまりを守り、よく考えて行動する。</p> <p>3 たくましさ</p> <p>(1) 目標に向かって継続して取り組み、心と身体を鍛える。</p>

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
<p>教育課程 学習指導</p>	<p>1 新学習指導要領及び、学校・児童の実態を踏まえたカリキュラムを編成・実施する。</p> <p>2 「言語活動」を重視した学び合いのある授業づくりの充実を図る。</p> <p>3 基礎的・基本的な内容の定着を図る。</p>	<p>1 22年度移行措置に係る内容について年間指導計画や週案に明記をし、遺漏のないよう教育課程の進行管理を行う。</p> <p>2 児童の発言が繋がるような発問を工夫する。</p> <p>3 テスト等から指導課題を明らかにし授業に生かす。</p> <p>4 一斉指導の中で個に応じた支援方策を準備する。また、スキル学習や個に応じた補習を行う。(放課後等)</p> <p>5 家庭学習頑張り週間を月1回設定する。</p> <p>6 週4回読書時間を設定し、教師も読書をする。</p>	<p>○移行内容は、遺漏のないよう進行管理が出来た。</p> <p>△多様な考えが出る発問を工夫するようになったが、言語活動を高める具体的方策について明確にした取組が必要である。</p> <p>○学期毎に誤答分析から課題を明らかにし、児童の学習意欲が高まった。</p> <p>△指導の振り返りとしての問題分析をしていく。</p> <p>○個に応じた補習等により理解、定着が図られた。</p> <p>○家庭学習の習慣化が図られた。</p> <p>△自主学習を重視し、主体的な家庭学習の習慣化を確立する。</p> <p>○ほとんどの児童が10分間の読書時間をスムーズに始められる。</p>

生徒指導	<p>1 生徒指導の三機能が生きて働く学級経営、児童会活動の充実を図る。</p> <p>2 人権意識の高揚、規律の確立、規範意識の醸成を図る。</p>	<p>1 教育活動のあらゆる場面をとおして児童の内面理解に努める。また、教員間で情報の交流を行う。</p> <p>2 異年齢集団活動を計画的に実施する。(学期1回以上)</p> <p>3 学級活動、児童会活動をとおしてリーダーの育成を図る。</p> <p>4 道徳の時間、人権学習の指導法等について交流する。</p>	<p>○情報の共有により、児童間のトラブルが減少してきた。</p> <p>○異年齢の児童の関わりが増えた。高学年の関わりが上手になった。</p> <p>△生徒指導の機能を生かす具体的な方策を策定する。</p> <p>△リーダー育成に繋がる学級活動が不十分である。</p> <p>○多様な価値、人権について考えるようになった。</p>
健康(体育)・安全	<p>1 家庭と連携しながら基本的な生活習慣を確立させる。</p> <p>2 身の回りの危険に気づき、安全な行動ができる。</p> <p>3 体育的な行事に自分の力を出し切る。</p>	<p>1 生活実態調査やよい生活習慣作りの取組を実施し、結果を資料化し家庭と連携しながら指導に当たる。</p> <p>2 事故災害を教材化するとともに、安全指導年間計画に沿って指導をする。</p> <p>3 具体的な目標を持ち継続して取り組む。(運動会、校内マラソン大会、なわとび発表会等)</p>	<p>○基本的な生活習慣について多くの家庭が意識をし、児童の生活習慣も確立してきている。</p> <p>△計画に沿って指導をしているが怪我が多い。先を見通し怪我が繋がる行動を考えさせる指導を日常的に行う。</p> <p>○校内マラソン大会では、多くの児童が目標タイムを上回った。</p>
研修(資質向上の取組)	<p>1 重点課題解決に繋がる校内研究・研修の充実を図る。</p> <p>2 教師としての専門性、資質・能力の向上に向けての研鑽を行う。</p>	<p>1 国語科については、模擬授業を行い授業研究の活性化を図る。</p> <p>2 事例研究をとおして生徒指導の機能が生きた学級作りの研修を進める。</p> <p>3 実技研修(図工、体育)を行う。</p>	<p>○授業イメージの共有が図られ課題点等が明らかになり事後研究が深まった。教師の指導力の向上が見られた。</p> <p>△事前にテーマを決めて取り組んだ実践レポートによる研修を進める。</p> <p>○絵画展等に多くの作品が入賞した。</p>
開かれた学校づくり	<p>1 家庭・地域社会との連携を図りながら、教育活動の推進、健全育成に努める。</p> <p>2 地域伝統の継承など地域を生かした豊かな体験活動の充実を図る。</p>	<p>1 学校だよりの全戸配付や学級通信をとおして学校や学級の取組を地域や保護者に知らせる。</p> <p>2 外部アンケート、学校評議員会議、学校関係者評価会議等を行い、学校運営の改善に生かす。</p> <p>3 地域の人材を活用した取組の充実を図る。(総合的な学習の時間、溝谷太鼓等)</p>	<p>○多くの保護者が学校は教育活動を分かりやすく伝えていると思っている。</p> <p>△学級通信は、より担任の教育方針や児童の様子が伝わるよう内容の工夫・改善が必要である。</p> <p>○アンケート等により、改善を行った。</p> <p>○地域の人材による授業等は、児童が意欲的に活動した。</p>
危機管理	<p>1 児童の安全確保に努める。</p> <p>2 文書管理を徹底する。</p> <p>3 全教職員に対して危機管理及危機管理意識の徹底を図る。</p>	<p>1 校区安全ボランティアの活動の充実を図る。</p> <p>2 登校指導、下校指導を計画的に実施する。</p> <p>3 校内の安全点検を行う。(月1回)</p> <p>4 個人情報、学校外に持ち出さない。</p> <p>5 避難訓練を計画的に行う。(年4回)</p>	<p>△ボランティアの主体性任せってしまった。</p> <p>○課題点等について指導し安全に登下校できた。</p> <p>△点検日が遅れることがあった。</p> <p>○個人情報の保護を徹底し、信頼関係を構築している。</p> <p>○災害時の児童の危機意識や避難行動の向上が図られた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>○ 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と言語活動を重視した授業による活用能力の育成を図る。</p> <p>○ 児童の好ましい友人関係の構築とリーダー性の育成を図る。</p> <p>○ 規範意識の一層の醸成と危険予知及び回避能力の育成を図る。</p>		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立鳥取小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 小学校の果たす役割への意識の高揚 2 不登校児童の未然防止 3 人材育成		○教職員の協働意識による教育活動の推進 △小中連携の推進	1 学力の充実（「京の子ども、夢・未来校（教育課題対応校）」指定の研究推進） 2 心の教育の充実による自立心の基礎の育成
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学年時における学力の定着 ・研究指定の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の充実（指導法の工夫、T T授業、個に応じた指導等） ・全学年での研究授業の実施（事前研・模擬授業・事後研） ・学期毎に学校作成の検証テストを実施し、分析し、回復指導の取組 ・昼ドリル・放課後補習の実施 ・研究推進委員会を中心に組織的体制のもとで推進 ・理論研究会、講師の招聘、先進校視察の実施による研究 ・中学校からの出前授業を実施し、中学校の先生より指導法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着や学習への意欲が見られる児童が少しずつ出てくるようになってきた。 ○共通理解のもと、全教職員での取組となってきた。 △確実な定着に向けた更なる工夫が必要である。 ○組織的な研究体制の確立ができた。 ○研修会や研究授業等により、研究テーマに沿った授業のイメージがもてるようになった。 △研究の成果を日々の授業で実践をしていく必要がある。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の充実 ・教育相談活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営についての実践交流会の開催 ・学習の基盤となる「学びのアプローチ」の作成と学期毎の振り返りを実施 ・事例研究会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級経営における児童へのきめ細かな実践を交流し、学び合い、各自の実践に取り入れることができた。 △児童状況の早期発見、早期対応に伴う共通理解を図る。 ○事例研究による児童のとらえ方の研修が充実した。 △教育相談部会の定例化を図る。
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・逞しい心身の育成 ・登下校における安全への意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ健康部が中心となり、年間を通して、体力づくりの取組の実施（朝マラソン・朝縄跳び・外遊びの呼びかけ等） ・定例通学班会だけでなく、適宜通学班会を開催し、安全意識への指導の実施 ・「見守り隊」との連携を図る。 ・毎月2回の登校指導を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○外遊びの呼びかけや児童会との連動での取組により、外遊びの定着に繋がってきた。 △運動の苦手な児童への対応 ○登下校時の問題点については、随時班会等を持ち、指導することで安全な登校となっている。 ○「見守り隊」との連携強化により、登下校が安全にできている。 △下校時間の徹底

特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 各児童の状況把握による個に応じた指導 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態把握と部会の開催（学期毎の状況や次学期への手だてについて） 家庭・関係機関との連携（家庭訪問・医療機関・連絡ノート） 学力充実部との連携を図り、学力定着に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○実態の把握に努め、部会で個に応じた指導への対応に努めた。 ○家庭や関係機関との連携に努め、個に応じた指導の一助とした。 ○交流学級とのきめ細やかな連携により、児童・学級の変容が見られるようになった。 △保護者、家庭の実態に即した更なる支援の充実を図る。 △部会の定例化を図る。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信 学校一日公開の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 各種たより（学校・学級・算数等）やホームページ等による発信 始業時より下校時までの一日参観の実施（各学期1回）（児童の学校での様子の把握を含め） アンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種たよりの発行により、学校の様子等を知ってもらえることができた。 △ホームページの工夫と更新 ○一日参観により、日常での児童の様子を見てもらった。また、延べ人数も増加した。 △アンケート結果を今後の改善にいかしていくこと。
研修（資質向上の取組）	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営参画意識の高揚 校内研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌主任による計画・提案・実施・反省・まとめまでの一連の流れへの意識化（説明責任） 研究推進を通じた組織化・協働意識の高揚 意図的な仕掛けによる校内研修の活性化 授業改善月間の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○各分掌主任が責任を持ち、見直しを含めながらの動きへと繋がっていった。 ○授業改善月間中のこだわり授業の実践を意図的に紹介することにより、意識化を図った。 △若手教員の更なる育成に努める。
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力の定着・向上及び活用力の育成（「京の子ども、夢・未来校（教育課題対応校）」の研究推進） 2 心の教育の充実と自立心の基礎の育成 3 人材育成 4 小中連携 5 教職員の学校経営参画意識の高揚 6 不登校児童の未然防止（「0」の継続） 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立黒部小学校]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 かしこく ・基礎学力・主体的・自主的な判断力・行動力 ・表現力、コミュニケーション能力の定着</p> <p>2 やさしく ・人にやさしい行動力・善悪の判断力、集団で協力して活動する行動力の育成</p> <p>3 たくましく ・自分の体を健康に保つ判断・行動力・食事をしっかりとる力・人と自分の安全を守る力、自分の体を強くする力の定着</p>	<p>○主体的に学習に向かう児童が見られるようになった。</p> <p>○自分の思いや考えを持ち、友達の意見を比べることができるようになってきた。</p> <p>○姿勢がよくなり、落ち着いて学習するようになってきた。</p> <p>○あきらめず粘り強く取り組む児童が増えてきた。</p> <p>○嫌いな物でも食べようとする、食生活に向かうたくましさが育ってきた。</p> <p>△主体的に自分の言いたいことを伝え相手も理解する力を高める。</p> <p>△家庭での学習習慣をすべての児童に定着させる。</p> <p>△学習に向かう心と体を再確認し、より質の高い学力を目指す。</p>	<p>1 指導の重点 ①基礎学力の定着 (国語、算数) ②主体的な行動力の育成 ③人にやさしい行動力の育成 ④体力の向上</p> <p>2 経営の重点 ①授業の充実 ②安定した学級経営 ③隣接学年による指導と協力・協働 ④徹底した組織活動</p>

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<p>1 基礎学力 (国、算) の定着</p> <p>2 主体的な行動力の育成</p> <p>3 自己表現力の育成</p>	<p>1 ①授業研究を中心として授業改善を推進する。 ②放課後補習を実施 (学校支援ボランティアの活用も) する。 ③ドリルでの習熟を図る。 ④家庭学習の習慣化をさらに進める。</p> <p>2 ①「かしこく」「やさしく」「たくましく」の3視点で各重点指導事項を絞った一斉指導を強化する。</p> <p>3 ①重点指導事項を絞った一斉指導を強化する。 ②児童会活動を連動させた指導を充実させる。</p>	<p>△年度末評価テスト (DRT) で 80 点以上を獲得した児童が 8 割以上という学級の占める割合が学校全体で5割にとどまり、授業改善、基礎学力の習熟が大きな課題であるととらえている。</p> <p>△主体性についてはまだまだ課題が大きく、全教育活動を通じた指導が重要だ。</p> <p>○挨拶に関しては、8 割を超える児童がするようになったが、次年度は9 割を目標にして実践する。</p> <p>△自己表現力は本校児童の一番の課題であり、次年度重点的に指導する必要性を感じる。</p>
生徒指導	<p>1 人にやさしい心・行動力の週定着</p> <p>2 善悪の判断力の定着</p>	<p>1 ①日常の生活上の問題点を教材化した人権課題を設定して、指導を進める。 ②校舎内の生活行動が校舎外における生活行動の基盤になるような生徒指導の機能化を図る。</p> <p>2 ①日常生活の中から課題を設定して教材化する。 ②社会教育団体と連携した、学校内外の問題点を整理した上で、両者が連携した指導をする。</p>	<p>○人にやさしくする力については 8 割を超え、一定指導の成果があったと考えている。</p> <p>○廊下を歩く、トイレのスリッパを直すことは、9 割を超え、重点指導から通常指導項目へ転換する時期にきた。</p> <p>△公共物の扱い等、公共の福祉に関する行動力については、校舎内外において問題が多く課題が残り、次年度、指導を強化する必要がある。</p>

健康（体育）・安全	<p>1 自分の体を健康に保つ判断力、行動力の育成</p> <p>2 好き嫌いなくなんでも食べる意欲、積極性の育成</p> <p>3 自分の体を強く鍛える行動力の育成</p>	<p>1 健康観察等、詳細な状況把握に基づく指導を推進する。</p> <p>2 目標値を設定する等、視点を明確にした指導を推進する。</p> <p>3 具体的な目標値を設定して、狙いを明確にした体力づくりを推進する。</p>	<p>○欠席0日数、欠席者数が過去3ヶ年間最も減少してきたが、さらに継続した実践を推進する。</p> <p>○好き嫌いがあっても時間内に食べきる児童がほぼ全員になり、食に対する積極性が高まってきた。</p> <p>○マラソン大会やなわとび大会等諸行事において記録が向上し、体力づくりへの意欲が高まったと考える。</p> <p>○健康維持、食に対する積極性、体力作りに取り組む姿勢が定着してきたと考える。さらに、内容を充実させたい。</p>
研修	<p>1 新規採用教員の育成</p> <p>2 目標と評価を一体化させた指導実践力の向上</p>	<p>1 ①拠点校指導教員を中心として、全教員が連携した指導・助言を行う。</p> <p>②分掌した校務を責任もって遂行するよう支援する。</p> <p>2 ①研究推進の柱を授業に置いた、こだわりのある研究授業を追究する。</p> <p>②全教育活動が目標と評価を一体化させたものになるようこだわりを持った学校・学級経営を行う。</p>	<p>○1年間欠勤せず、まじめに校務に務め、指導力を身に付けることができた。</p> <p>○分掌された校務を責任もって果たすことができた。</p> <p>△目標設定があいまいで、その結果、授業のまとめを児童の変容で評価するところまでいかない授業が多かった。</p> <p>△身に付けさせるべき目標があいまいなまま、実践してしまうことがまだ多い。指導と目標の一体化の研修が必要だ。</p>
教育相談	<p>1 教育上配慮を要する児童についての相談活動の実施</p>	<p>1 定期的な教育相談部会を継続する。</p> <p>2 保護者の月1回の懇談を継続する。</p>	<p>○担任が児童の状況や指導上の悩み等を打ち明けて相談することで、指導に希望が持てるようになってきた。</p> <p>○相談対象児童の保護者と定期的・継続的に懇談することで、保護者の児童へのかかわりがよくなり、結果的に学校生活における児童の状況が改善してきた。</p>
開かれた学校づくり	<p>1 地域の人材の活用</p> <p>2 教育活動の保護者・地域等との連携・啓発</p>	<p>1 学校支援地域本部事業を積極的に活用する。</p> <p>2 ①ホームページを頻繁に更新する。</p> <p>②授業や学校行事等を継続的に公開する。</p> <p>③PTA 総会・学級懇談会等を活用した啓発を充実させる。</p>	<p>○4名の方に様々な形で学校に入ってもらった。</p> <p>○ホームページの内容を頻繁に更新した。</p> <p>○月1回程度、授業や行事を公開し、多くの保護者や地域の方に学校の様子を見ていただくことができた。</p> <p>○年度末総会では、1年間の教育活動を学校評価として保護者に伝えることができた。また、学校と保護者の連携の大切さについて啓発した。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>1 学校経営計画のスリム化により教育目標の実現を図る。</p> <p>2 組織体制の見直しにより協働体制の確立を図る。</p> <p>3 授業研究を中心とした教職員研修を充実させて、指導力の向上を図る。</p> <p>4 開かれた学校づくりを一層推進させて、学校と保護者・地域が連携した指導・支援を充実させる。</p> <p>5 小中連携を充実させる。</p>		

平成22年度 学校評価 自己評価報告

学校名〔京丹後市立野間小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
少人数であることを利点と捉え、児童一人ひとりに生きる力を育む。そのために、地域の自然や人材を十分活用し、体験を重視しながら教育活動の充実を図る。	○少人数であることを生かした個別指導を充実させた。 ○地域の自然や人材を活用した体験活動を展開できた。 △論理的に物事を考える力に課題を残した。 △豊かな表現力（作文を書く力など）に課題を残した。		・文章を書く指導を通して、豊かな表現力の育成をはかると同時に、物事を論理的に考え、場にあった適切な判断力を身につけた児童を育成する。 ・少人数であることの利点を最大に生かす学校経営
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	国語科を中心に、文章を書く指導を重視することで、表現力及び思考力の育成を図る。	①日々の指導の中に、日記指導を取り入れると同時に作文指導の充実を図り、文章表現力を高める指導を重視する。 ②校内研修に「文を書く」ことを位置づけ、実践化する。	○児童の文章を書くことへの抵抗が少なくなり、よく考えて、豊かな表現をさせることにつながった。 △語彙力を増やしていくことが課題である。
生徒指導	異年齢の集団遊びを通して、思いやりの心の育成を図る。	①特別活動部と生徒指導部が連携して、児童相互の人間関係が深まる異年齢の取組を進める。	○困っている子に優しくことばかけをする場面が増えた。 △低学年児童は、高学年にたよってしまうことがある。

健康（体育）・安全	年間を通して体力づくりを全校的に実施し、健康な体づくりを進める。 自分の身を守る指導を実施	①前期は朝マラソン、後期は朝なわとびを継続することにより、児童の体力増進を図る。 ②計画的に避難訓練を実施（４回）し、自分の身を自分で守ることを指導する。	○朝の体力づくりを継続することで、体力のみならず、耐性や自己を律する気持ちの育成もできた。 ○体力の増加とともに、学習への集中度も高まってきた。 ○避難訓練を通して、自分の命への意識が高まった。
危機管理	交通事故の防止に努める。	①児童・教職員ともに、日常的に交通安全について指導・啓発を進める。（新聞報道などを教材化する。）	○交通教室の実施で、自転車の安全な乗り方を身につけると同時にヘルメットの着用も全員できるようになった。
進路指導	中学校進学を見据えた進路指導の充実を図る。	①学年の段階に応じた「中学校進学」を意識した指導を展開する。	○６年生については、２学期に進路指導の時間を３時間設定し、中学校参観も実施して具体的な指導ができた。
特色ある学校づくり	地域の自然を活用した「野間小学校ならではの教育」を展開する。	①地域の自然を活用した教育を実施することで「ふるさとを思う心」を育成する。（計画的な体験活動の実施）	○椎茸の菌打ち体験やそば栽培体験など、地域の自然を体感・実感できるような貴重な体験をさせることで、この地域を思う気持ちを醸成できた。
次年度に向けた改善の方向性	①次年度は、新学習指導要領完全実施の年となり、「伝え合う活動」や「話し合う活動」等コミュニケーション重視の教育推進が求められることから、本校のみでの学習では人数が極めて少ないため、近隣の学校と連携して、「合同学習」や「交流学習」を積極的に取り入れていく。 ②また、その中での自己表現力を高める指導も充実させていきたい。 ③体験して実感を伴う学習活動の充実を図っていきたい。		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立久美浜小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>確かな学力と豊かな心と体の育成を図るとともに、保護者・地域から信頼される学校づくりをめざす。</p>		<p>○学校行事・児童会活動・学級活動を中心にして、「心地よい学校生活」を創り出し、自己存在感、所属感、連帯感等を強めて学校生活の安定が築けた。 △特定の学年で学力・学級経営上の課題が克服できていない。</p>	<p>校訓「一生懸命」を根幹に置いて、「わかる授業づくり」と「信頼関係に基づく学級づくり」に努める。</p>
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	<p>○学力の充実・向上をめざす。 (学力の質と量から迫る) 1 重点教科 算数科（三年次） 「思考力を深める授業づくり」～主体的に課題に取り組む学習集団の育成をめざす～を全教職員で取り組む。 2 新学習指導要領全面実施に向けての移行措置を確実に行う。 3 家庭学習習慣の確立をめざす。</p>	<p>1 算数科の校内研究・授業研究を通して組織的に学び合い、指導方法の工夫改善を一層図る。これを、他教科にも波及させていく。 2 学力に課題を持つ児童の個別シートを基にして、共通理解を図り、教員全体で指導の強化に努める。 3 ドリル学習、補習等の時間を多くとり、学力の定着を図る。 4 言語力、表現力を付けるために、授業での発表・発言を重要視して、読書活動、スピーチ、日記、作文等に重点を置く。 5 移行措置を確実に実施して、未履修をなくして、全面実施につなげる。 6 「家庭学習の手引き」を活用して家庭学習へつなぐ。</p>	<p>○重点研究の取組により、学習規律の確立と児童の学習意欲や積極的な学習参加が見られ、授業が活性化した。 ○全教員で学力に課題を持つ児童への指導にあたることで、学力の底上げが少しずつできてきた。 ○確かな学力で求められている表現力を付けるために、さまざまな取組を展開することで、授業内容が充実して、基礎的な力が付き、個の伸長にも寄与できた。 ○保護者に新学習指導要領のねらい・ポイントについて説明し、理解が深まった。 △特定の学年が学力に課題を残している。(学力の二極化、低学力層の割合が高い等) △家庭学習習慣の確立に向けて、PTA・保護者と協力して取組がスタートできたが、浸透するには時間がかかる。</p>
生徒指導	<p>○学級づくりを基礎に置いた「豊かな心」の育成 1 豊かな人間関係の構築をめざす。 2 不登校やいじめを起こさない指導の充実を図る。 3 人権認識を培う。</p>	<p>1 児童の内面を揺さぶる道徳の時間を創り出す。 2 学級づくりと授業づくりを基盤に置いた積極的な生徒指導に努める。 3 特別活動の中でも、異年齢活動を重視して積極的に活動を展開して、豊かな人間関係をつくる。 4 不登校・いじめの未然防止を図る教育相談体制の充実と日常的な観察・教育相談活動を充実させる。 5 人権に係る研修を積み、指導力量を高める。</p>	<p>○学校行事や学級活動のねらいを人間関係の構築を重点に据えた活動が功を奏して、教師と児童、児童同士の信頼関係が深まった。 ○不登校やいじめは発生しなかった。不登校傾向の児童も教育相談体制の充実でサポートできた。 △道徳を推進する力が弱く、道徳推進教師を中心に全校推進体制を確立することが必要である。 △人権の取組や指導が浅く、児童の認識が浅い。</p>

健康（体育）・安全	<p>1 基本的な生活習慣の確立をめざす。</p> <p>2 学校内外における事故防止と安心安全を確保する体制の確立を図る。</p> <p>3 体育・スポーツ活動の充実を推進する。</p>	<p>1 学校と PTA が基本的な生活習慣の現状認識・課題を共通理解して一致した取組を提起して、改善を図る運動につなげる。</p> <p>2 学校の保健安全指導を充実させるとともに、学校・家庭・地域で結成された「久美っ子見守り隊・安全サポーターの会」との連携した取組を充実させる。</p> <p>3 体育の授業を中心として、教育課程外の時間を活用して体力づくりと運動することの楽しさ・良さを実感させる。</p> <p>4 各種大会への積極的な参加を促す。</p>	<p>○「久美っ子見守り隊・安全サポーターの会」の会員の増加や活動の充実により、子どもを見守り支える体制が確立して事故や怪我が減少してきた。</p> <p>○積極的な体力づくりに取り組んだ成果が現われ、体力・運動能力が伸びた。また、運動の好きな児童が増加した。</p> <p>△学校と家庭が一致して基本的な生活習慣確立に向けての課題に取り組むことができたが、まだねらいや取組が浸透しておらず、継続という面では課題を残している。</p>
特別支援教育	<p>1 特別支援学級及び通級指導教室における当該児童の障害の克服と改善を図る。</p> <p>2 通常の学級に在籍する特別な支援を要する児童への指導・支援を推進する。</p>	<p>1 自立して社会参加ができる資質を養うことができる「個別の指導計画・支援計画」を活用するとともに、指導方法の工夫改善を積極的に進める。</p> <p>2 通常の学級に在籍する特別な支援を要する児童の実態と課題を全教職員で共通理解をする。また、「個別の指導計画」を活用して、きめ細かい丁寧な指導を進める。</p> <p>3 児童・保護者・地域への理解啓発を積極的に進める。</p>	<p>○特別支援学級の当該児童の学力及び社会性等大きく伸びた。（検査結果の数値や日常の学習・生活等から）</p> <p>○通級指導を受けた児童は、早期発見・早期治療により改善が見られ大部分が終了できた。</p> <p>○特別支援教育の理解教育も年々深まり、特別支援学級の存在感も増し、全校から温かく見守られている。</p> <p>△通常学級における特別な支援を要する児童の増加に伴い、具体的に指導する教員の人数が足りない。</p>
研修（教職員の資質能力の向上）	<p>1 職種・経験年数等に応じた実践的指導力の向上を図る。</p>	<p>1 重点研究「算数科（三年次）」を中心とした校内研修の工夫改善を行う。（事前研・事後研・グループ研・示範授業・初任者研等）</p> <p>2 教育実践で能力・実績を向上させる教職員評価の積極的な活用と取組を行う。</p>	<p>○重点研究で「授業力」を付ける取組が組織的に学び合え、また、さまざまな校内研修に取り組むことによって、学級経営力や他教科への授業力につなげることができた。</p> <p>○初任者研修を学校ぐるみで取り組んで、自己の実践の見直し・改善に役立てた。</p>
保護者・地域との連携	<p>1 本校創立140周年記念の取組を契機に「開かれた特色ある学校づくり」を推進する。</p>	<p>1 140周年記念式典及び記念事業の成功をめざして取組を学校・PTA・地域が一体となって取り組む。</p>	<p>○PTA・地域の理解と協力を得て、140周年記念実行委員会が組織でき、その成功に向けて機運が盛り上がってきた。また、各部で総力を結集して、式典や事業の具体化を図ることが着実に進行できている。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>1 学力の充実向上をめざすためのプロジェクトチームを結成する。（授業を中心として、学習環境や学習の整備を図る）</p> <p>2 本校創立140周年記念式典及び記念事業の取組を教育内容関連付け、すべての児童に真に「生きる力」を培う。</p> <p>3 教職員の人材育成を図ることを重点に置き、一層の資質能力の向上を図るとともに、「学校力」を着実に付ける。</p> <p>4 新学習指導要領の全面实施に伴い、趣旨・ねらいを踏まえた教育活動を円滑に推進させる。</p>		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立川上小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「さらなる高みへの挑戦」「五つの大好き」意欲の喚起と継続をめざした指導		前年度の成果である教師の自己研修、教職員組織としての研修体制、授業改善を児童の変容につなげる。	各教師の指導力量の向上、組織としての協働体制の確立を通して児童の学力、体力の向上を図る。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	学校大好き・勉強大好き～意欲を引き出す教育活動～が展開できるよう、各分掌が連携し合って授業実践を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 重点教科を国語科とし、読む力、表現力を育てるために言葉を大切にした授業を行う。 学力分析を行い、朝読書、ドリルの工夫・改善、家庭学習の推進、昼休みや放課後、長期休業中の補充学習にも取り組む。 伝えたいことが伝えられる力の育成を図り、考える過程を大切にした指導にこだわる。 知ること、聞くこと、学ぶことに興味を持たせ、より高まりあおうとする学級を育てる。 年度末に検証テストを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発言ルールの活用、給食挨拶、発表集会等取組の工夫により、児童が自分の言葉で表現することができるようになってきた。 ○検証テストでの不十分な点は、日々のドリル、放課後のがんばりタイムなどを活用して回復を図ってきた。 ○他校種教師による出前授業、地域講師授業、ゲストティーチャー授業、教科・新聞掲示は学習の興味づけと学習意欲向上につながった。 △教師が先取りや先回りをしないで、児童に考えさせることにこだわった指導を継続する。 △読書の量や内容を充実させ、読む力を高める。
生徒指導	学校大好き・友だち大好き・自分大好き～児童の心をつなぐ温かさのある学校、学級作り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の生活実態や内面理解に努めるとともに、問題事象につながるサインを見逃さず、組織的な対応を行う。 ・挨拶の励行や多様な体験活動を通して、人と人とのかわり方の基礎を育てる。 ・月々の生活目標を、日常生活での目標設定と連動させ、児童が見通しを持った行動や協力しあう行動ができる力を育てる。 ・異年齢遊び、学級遊び等を積極的に行う中で、自分の思いが伝えられ、友達のをよさを認め合える学級経営を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題事象には、生指主任を中心に組織で対応し、早期に解決ができた。 ○児童の情報を共有化し、個々の課題に対応した指導で、不登校を未然に防ぐことができた。 ○時宜にかなった月々の生活目標で全学級の目指す指導方向が明確になり、児童に自主的、実践的な動きを作ることができた。 ○児童個々へのプラス評価が自己肯定感につながり、自信を持ったり、友達を認め合えるようになった。

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> 個人課題に基づく目標を持った体力づくりや基本的な生活習慣の改善 安全な学校生活のために安全計画のもと指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活点検を実施し、健康的な生活習慣の確立をめざす。 日常的に保健指導を進める。（虫歯予防、喫煙、飲酒、薬物乱用防止学習） 交通安全教室、避難訓練、防犯訓練等を安全教育計画のもとに実施し、自他の安全について指導する。 全校児童の通学班登下校による安心安全な登下校を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣改善の一環として取り組んだ朝食点検は親子で取り込まれ、家庭での意識づけや改善のきっかけとなった。 ○関係機関と連携しながら、計画通り保健指導ができた。 ○教職員、見守り隊による登下校立哨、にこにこカー巡回により安心安全な登下校ができた。 △自転車乗車時のヘルメット着用について啓発が不十分だった。
研修（資質向上の取組）	<ul style="list-style-type: none"> 授業実践力の向上を目指し、基礎基本の定着と学力向上を目指した指導法の研究を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科を重点研究教科とし、説明文を中心に読む力の向上を図り、児童の学力をさらなる高みへと押し上げる。 研究授業は低高各グループ研が主体的に取り組み、指導力、授業実践力の向上をめざす研究を進める。 外部研修を積極的に受講し、研修で学んだことは復講習を行い、本校の実践に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各グループ研の積極的な活動により全学級の研究授業が計画通りに実施できた。また、それぞれの授業の成果や課題を次の授業へとつないでいくことができた。 ○定期的な研究推進部会の開催と校内研の工夫・改善により、具体的な授業実践を学ぶことができ、少しずつではあるが、児童の変容につながってきた。 △さらに教材研究や授業研究を充実させ、授業実践力の向上を図る。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を必要とする児童の個性、能力の伸長に努め、心豊かでたくましく生きる力を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援が必要な児童の実態を把握、共通理解し、関係機関と連携した支援体制を継続する。 一人ひとりの発達状態や学習課題にあった個別の指導計画による個に応じた指導を進める。 保護者への啓発を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員の支援体制、発達検査実施、保護者や関係機関との連携で個別の課題に応じた指導が進められた。 ○保護者と連携を密にした就学指導を進め、理解を得ることができた。 △さらに保護者への啓発を進め、特別支援教育への理解を深める。
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校を目指し、地域との連携を発展的に継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携事業を、お互いが理解し合える場として活かすために、行事、事業に積極的に参加をする。 地域と関係した特色ある伝統行事には、学校の今日的課題の理解を求め、継続しながら改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本校にとって、地域との連携は大きな意味を持つが、全教職員の積極的な地域行事参加で交流が進んだ。その中で、地域の理解を得ながら、今日的な教育課題を踏まえたよりよい連携や行事改善に向けた足がかりができた。 ○地域ネットワーク（PTA、学校評議員、民生児童委員等）の協力で児童の安心安全に関わる情報を得ることができ、迅速な対応を進めることができた。
次年度に向けた改善の方向性	<p>今年度の成果と課題を生かし、次年度も、さらなる高みを目指し学力・豊かな心・体力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「伝える力」の育成を図り、考える過程を大切に指導にこだわる。（指導方法の工夫、改善、開発に一層努める） 基礎学力の定着、充実と活用力の育成を目指す。 家庭、地域と連携し学校教育の充実につなげる。 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立海部小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 児童に確かな学力を付ける。 2 教職員が組織的・協働的に活動する。 3 保護者や地域から信頼される学校づくりをめざす。		○自分の考えや感想が表現できる児童が増えてきた。 ○異年齢活動を通して協力する態度が育ってきた。 △個々の学力課題を解決するための取組が不十分だった。 △不登校の課題が解消できなかった。	1 国語科の重点研究により、「書く力」を育成する。 2 個々の学力課題克服に取り組む。 3 不登校の解消と未然防止に努める。 4 教職員の協働体制を確立する。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 国語科の「書く」領域を中心に伝え合う力を育てる。 個々の学力課題解決の手立てを講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業では必ず書く活動を取り入れる展開にし、組織的に学び合う。 国語科以外の教科等でも、書く活動を積極的に取り入れる。 全校スピーチなど発表の場を多様に設定する。 学力テストの結果を分析し、指導に生かす。 個々の学力課題解決のために、学力補充時間に複数で指導する。 	○研究授業を通じて、授業展開や指導方法について学び合うことができた。 ○全校スピーチでは、自分の考えをしっかりと発表することができるようになるとともに、その場ですぐに感想を言ったり質問したりする児童が増えてきた。 ○書くことに対する抵抗が少しずつ減るとともに、書くことへの意欲が高まりつつある。 △言語活用力を付ける研修を行う。 △より個々の課題に視点を当てた学力補充に取り組む。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢の活動により、好ましい人間関係を育成する。 問題行動を早期に発見し、組織的に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢で行う各活動のねらいを明確にするとともに、練習の振り返りを大事にして、児童がお互いの気持ちを分かり合うようにする。 学級での話し合い活動を重視する。 児童の実態を共通認識するため、毎週児童の実態を交流する。 	○異年齢の活動を通して、高学年のリーダー性が育つとともに、みんなで協力してやり遂げる態度が育ってきた。 ○児童の実態交流を丁寧に行い、共通認識することができた。 ○問題事象について、組織的に対応することができた。 △続けて不登校の未然防止と課題解消に向けて取り組む。
健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> 年間をとおして体力づくりに取り組む。 基本的な生活習慣を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間休みに、目標を持たせてランニングや縄跳びなどを行う。 体力課題を克服するため、体育の時間に「海部小サーキット」を取り入れる。 対外的な大会に積極的に参加させる。 生活習慣を確立するために、「すっきり点検」に取り組む。 	○児童が自分の目標に向かってよく努力していた。 ○「海部小サーキット」が定着してきた。 ○対外的な大会に大勢の児童が積極的に参加した。 △「食」の指導を年間指導計画に基づいて効果的に指導する。 △中間休みの体力づくりの取組をさらに工夫する。

開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域関係団体との連携を深める。 ・学校の情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域関係者に学校行事への参加を積極的に呼びかける。 ・海部土曜お楽しみ会に毎回参加する。 ・学校の様子を知ってもらうために、学校だよりや学級通信の紙面を工夫して積極的に発行したりホームページを更新したりする。 ・学校改善に向けて、年2回の学校評価アンケートを行う。 ・地域の方に社会人講師として授業に参加してもらう。 	<p>○多くの方に行事に参加していただき、子ども達のがんばる様子を見ていただけた。</p> <p>○海部土曜お楽しみ会に積極的に参加し、連携が深まった。</p> <p>○学校だよりや学級だよりの紙面を工夫して発信をすることができた。</p> <p>○年2回の学校アンケートを実施することができた。</p> <p>○たくさんの方に社会人講師としてお世話になり、子ども達の意欲・関心が高まった。</p> <p>△より多くの方に学校に来てもらう機会を持つ。</p> <p>△ホームページの更新が不十分だった。</p> <p>△学級通信を積極的に発行する。</p>
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し、児童の安全確保のための環境を整備する。 ・より実践的な対応訓練を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あまべっ子見守り隊」との連携を図り、児童の安全確保を充実させる。 ・関係機関と連携して、「こども110番のいえ」への駆け込み訓練を行う。 ・毎月校内の安全点検を行う。 ・年3回の避難訓練を実施する。 	<p>○「あまべっ子見守り隊」との連携により、児童の安全確保をすることができた。</p> <p>○関係機関と連携して、「こども110番のいえ」への駆け込み訓練を行い、防犯意識が向上した。</p> <p>△「あまべっ子見守り隊」の取組内容を充実させる。</p> <p>△駆け込み訓練の内容をさらに工夫する。</p> <p>△危機管理マニュアルの内容を充実させる。</p> <p>△安心・安全マップの見直しをする。</p>
特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動（歌唱）を継続して行い、豊かな感性や表現力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝音楽と全校音楽の時間を設定し、計画的に進める。 ・学習発表会や七夕ふれあい集会等で、保護者や地域の方に歌を聴いてもらう。 ・優れた音楽を鑑賞する機会を設ける。 	<p>○音楽活動を計画的に進めることができた。</p> <p>○学習発表会等で発表することにより、保護者等に感動してもらい、児童も歌声に自信を持った。</p> <p>○今年度は歌だけでなく全校合奏も取り入れた。</p> <p>△どの児童ものびのびと歌えるように、さらに指導を工夫する。</p> <p>△音楽鑑賞会は設定できなかった。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 日々の授業の充実と個の学力課題の克服により、学力を向上させる。 2 お互いが学び合って指導力量の向上が図れるような、組織体制づくりや協働意識の高揚に努める。 3 重点項目や具体的方策をより具体化・焦点化する。 4 学校評価をより学校改善に生かせるように工夫していく。 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立佐濃小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
一人一人に確かな学力を付け、豊かな心を育てていく学校		○全教職員の共通理解のもとで、あらゆる教育活動に対して全員の協力体制のもとで進めることができている。 △児童が意欲的に、しかも粘り強く物事に取り組む姿勢を育て、実行できるような取組を進めていく。		全ての教育活動において、決めたことは最後まで粘り強くやりきる児童の育成を図る。	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）		
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいの明確な授業を計画的に進める。 ・授業研究の活性化と個に応じた指導や補習態勢を確立により学力定着を図る。 ・読書活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究部を設定し、授業研究会を通してわかりやすい授業づくりについて研究していく。 ・国語研究部と算数研究部を立ち上げ、定期的なグループ研修で授業のあり方について深めていく。 ・朝ドリルや放課後の補習などにより定着を図る。 ・年間をとおして読書タイムを設定し、読解力への基礎となる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究部を中心に国語、算数においてわかりやすい授業づくりの研究を進め、理解の度合いが3層に分かれている児童実態に応じた授業ができた。 ○研究授業や算数ブロック、国語ブロックでの研究も組織的に進めることができた。 ○ドリル学習、補習等で個々の児童に応じた対策をとるなど学力定着に向けて学校全体で取り組み効果があった。 △個々の児童の課題に応じた支援のあり方の研究。 		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士がお互いの良さを認め合える活動を積極的に取り入れ自己肯定感を高める。 ・規律ある楽しい学校生活づくりにより、不登校児童を出さない。 ・自分の思いを伝える場の設定により伝える力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢での活動を多く取り入れ、児童会活動の活性化も図って全校児童のつながりを深める。 ・チャイム行動により、規律ある行動を身につけさせる。 ・欠席児童があれば即連絡して状況を把握し、登校渋りと判断される場合は、その日のうちに組織的対応を講じる。 ・朝会、学校行事、児童会活動等で児童が考えや感想を発表する場を多く設定し、誰もがみんなの前で発表できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童に対して肯定的に評価をすることで、活発な活動につなげることができた。 ○児童会活動等の異年齢活動において、自分たちで目標を設定し主体的に行動できる児童が増えた。 ○不登校児童は0人であり、登校渋り傾向の児童に対しても早期対応により解決することができた。 ○問題事象がゼロであった。 △言葉遣い等の規律面で少し課題が残った。 		
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・全校的な取組により、体力、持久力の育成を図る。 ・健康な体づくりの推進により病気による欠席児童を減らしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間を設定して朝マラソンや縄跳び練習などの取組をすることにより体力向上の意識化を図る。 ・児童会の保健委員会活動を活発化させることにより、児童自らが健康の大切さを意識し、健康な体づくりを意欲的にできるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○マラソン大会やなわとび大会等を視野に入れた長期間の体力づくりができた。 ○委員会活動を中心とした健康な体づくりや安全を意識した取組が進められた。 △児童の危険予知能力を高めていくことが必要。 		

開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ていねいな情報発信と反応についても再発信し、双方向の情報交流を目指す。 ・積極的に保護者や地域の方に学校の様子を見てもらう機会を設定する。 ・PTA、地域の関係機関との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学級通信等で学校の様子をわかりやすく発信し、保護者の意見や反応についてもできるだけ掲載する。 ・授業参観や学級懇談会を計画的に実施するだけでなく、地域の方々に学校に来てもらえるような事業を組み合わせていく。 ・公民館等の地域と連携した行事については、事前の調整段階でよりよい連携のあり方を探り、地域の良さを児童が感じることが出来る取組にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に児童の肯定面を評価することを心がけた学校だよりを中心とする広報誌が発行できた。 ○オープンスクールを2回実施し、その日にあわせて自由研究発表会や祖父母参観を開催することで、多くの保護者や地域の方の参観が得られた。 ○佐濃の教育を進める会の活動や各地域での活動等にも多くの児童が参加することができた。 △公民館主催の事業等にも、もう少し参加できると良い。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・危機に対して的確に対応できる児童の育成を目指し、訓練の機会を設定する。 ・教職員が常に危機に対して対応できることを目指し、そのための研修の場を設ける。 ・保護者・地域と連携して危機を回避できるような態勢づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間4回は計画的に訓練を実施し、命や体を大切にする意識を高める。特に地震に際しての身の処し方については担任の児童への指導並びに学校全体での動きについて、より安全な方法を探っていく。 ・毎月の安全点検をしっかりと危険箇所を除去することでより安全な教育環境を創り出していく。 ・登下校時における交通指導や安全指導を保護者や地域の方と連携しながら進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間に計画した訓練はすべて実施することができ、特に不審者対応は具体的な設定での実施であり、地震に対しても素早い避難等、具体的な指導ができた。 ○年間をとおして毎月学校の全箇所を教職員の目で点検し、補修することで安全の確保ができた。 ○毎月の交通指導を教職員と保護者ですることによって安全な登下校ができた。 △にこにこカーの活用をさらに多くの保護者、地域の方に拡大していきたい。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする児童に対する教育的ニーズに応えるため、よりよい指導方法を模索するとともに、工夫改善を図り、わかりやすい授業を創り出す。 ・学校生活で支援を要するあらゆる児童に対してきめ細かな支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する児童に対して、個別の指導計画等を作成するなど、よりきめの細かい対応を心がける。 ・全教職員の共通理解のもとで、その子の課題に応じた支援を全教職員で進める。 ・支援部と担任が連携をして、学習を進めていく際の支援のあり方についても、個々の児童に対する支援方法を探り、支援計画を作成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の支援計画をもとにした指導により、学力が伸びてきた児童が多く見られた。 ○担任を中心としながらもすべての教師が支援する体制のもとで意欲的な学習活動につなげることができた。 ○支援部が中心となって具体的な方策を示し、それに基づいての指導をすることで多くの成果が上がった。 △個々の児童の理解を進めるための教材づくりをさらに充実させる必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教師が個々の児童に視点を当てた授業についての研究を進め、授業実践力を伸ばすことで学力向上を図る。 ・優しさとともにたくましさも身につけた児童の育成を図る。 ・命を大切にするとともに健康な体づくりを常に心がけることが出来る児童の育成を図る。 ・保護者地域と連携、協力関係をさらに深めることで地域から愛される学校づくりをめざす。 		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立田村小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「心豊かで かしこく たくましく 意欲的に 生き抜く 児童の育成」 ～生き生き笑顔で学ぶ 児童の育成、学校づくり～		○算数科における学び方を指導することによって、算数科の学力向上を一定図ることができた。 ○漢字の読み書きの力が随分伸びた。 △算数科における学習を通して、言語力の向上、説明する力の向上を図る。 △自分の考えを書いてまとめる指導の充実を図る。	○算数科における学び方の指導を通して、聞く力、内容をつかむ力、理論的思考力、書く力、考えを出し合える学習集団を育成する。 ○児童がコツコツと努力して自分の目標を達成することができるよう丁寧に指導し、自信を持たせることを通して、次への意欲を高める指導の充実を図る。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	○算数の学力充実・向上を目指す。 ○努力して目標を達成することによって自信を持たせ、次への意欲を高める指導の充実を図る。	○算数科の学び方を指導し、学力の向上を目指す。 ・一人一人が考えを出し合い、深め合う授業づくり。 ・問題文を読み取り、イメージする指導。 ・つかんだ内容や自分の考えを書くことにより、発表や練り合いにつなげる指導。 ・お互いの意見を聞き合い、認め合う指導。 ○授業の足跡を模造紙で残したり、学び方を各学年の教室に掲示して、日常から学習に役立てる。 ○社会人講師や出前授業の活用を図る。	○どの学年も、算数科の課題を追求する練り合い学習や国語の読み取り学習などを通して、自分の考えと比較しながら学習内容の理解を深める力が向上した。 ○DRT学力調査の実施・結果分析を通し、読み取る力が向上したことや学習内容が随分定着していることが分かった。また課題のある児童への回復指導ができた。 ○話型指導の徹底、授業の足跡の掲示活用を通し、話し合いの質が向上した。 △伝えることが苦手な児童や聴くことが苦手な児童への指導を更に工夫する。 ○外部人材の活用により、担任とは違う指導方法によって、児童の学習意欲が更に高まり、粘り強く取り組んで図工作品の質が良くなったり、体育の走力が向上したりした。
生徒指導	○一人一人が自信をもてる教育活動をする。 ○生きる力の基礎づくりをする。	○様々な取組をし、肯定的な評価を積み、自信を付けさせる。 ・挨拶をする、ルールを守る等のマナー指導。 ・2ヶ月単位の生活目標の設定と児童の実態交流 ○全校児童の前で、発表する機会を多く持つ。	○挨拶の意義を理解させ、良好な人間関係やコミュニケーションの構築に役立った。 △児童会活動等の取組と生徒指導のねらいを、もっと明確に関連づけて取り組む必要がある。 ○児童会の取組で元気の良い挨拶、規範意識が向上した。
健康(体育)・安全	○健康に対する総合的な認識を高め、基本的な生活習慣を形成する能力と態度を育てる。 ○生活、交通、災害の3つの安全を柱に指導し、生命を尊重する心を育てる。	○基本的な良い生活習慣を意識させ、身に付けさせる取組を実施する。 ・うがい、手洗い、歯磨き、健康観察の継続指導とその徹底を図る。 ・体重測定時のミニ保健指導 ・遠望視の実施による視力低下の防止 ○登下校時の安全を確保する。 ・ここにこカーを利用した実態把握と指導 ・低学年の個に応じた付き添い下校の実施 ○安全点検、避難訓練、交通教室を実施する	○休み時間、給食時のうがい、手洗い、歯磨きを、年間を通して徹底して指導したことにより、子どもの健康に対する認識が高まり、基本的な生活習慣の向上が見られた。 △給食前に遠望視とその点検を実施したが、その成果と課題の分析が不十分だった。 △学習時の姿勢をよくする指導が不十分であった。 ○一人で下校しなければならない低学年児童に対し、教員による付き添い下校を実施し、安全及び安心を確保した。 △安全点検、避難訓練、交通教室は計画的に実施できたが、防犯訓練と研修が不十分だった

<p>研修（資質向上の取組）</p>	<p>○教師の指導力量を高める。</p>	<p>○算数科を中心とした授業研究会を充実させ、授業実践力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低高学年別ブロック研究会、事前研究会、事後研究会の充実を図る。 ・外部での研修、出前授業による研修を実施する。 ・復講習を行い、全教職員の学びとする。 <p>○学力を支える「心の教育」に係る研修を深める。</p>	<p>○仮説を設定し、ブロック研、事前研、事後研究会で検証し、全学年とも授業に取り入れ授業改善を図った。その結果、各担任の指導力量が高まった。</p> <p>○総合教育センターや与謝の海養護学校から講師を招聘して研修したり、担当者が他校の研究発表会で学んだことを復講習した。</p> <p>△道徳、特別活動等の特質に応じた授業のあり方について、教員へ個別に指導はできたが、全体での研究授業を実施できなかった。</p>
<p>特別支援教育</p>	<p>○個に応じ、個を伸ばす指導や支援を充実させる。</p>	<p>○一人一人の努力の様子や課題を丁寧に把握し、課題のある児童の具体的な指導について、全教員で研究協議し、その方針に基づいた指導をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級指導教室の担当者、保護者との連携を図る。 ・各学期毎に学習の様子を分析して、その結果を次の学期の指導に活かす。 	<p>○児童の内面理解を深め、児童の実態に寄り添いながら、根気強くきめ細かな指導を展開できた。</p> <p>○通級指導を受けている児童の保護者や関係者とよく連携し、保護者の願いをくみ取りながら指導した。</p> <p>○ダウン症児の入学を見据えて、保育所と連携できた。</p>
<p>危機管理</p>	<p>○不慮の事故に対して、素早く、的確に組織的な対応ができるよう危機管理の徹底を図り、その未然防止に努める。</p>	<p>○事例研究を通して、学校事故の防止に努める。</p> <p>○危機管理マニュアルの共通理解を図る。</p> <p>○「田村みまもり隊」や警察などとの連携を図る。</p>	<p>○機会ある度に教職員における不祥事の事例を示して、意識改革を図った。</p> <p>○不審者については、田村見守り隊や地域の警察と情報を交流し対策を立てて対応できた。</p> <p>△服務規律の確保、懲戒処分の基準等、教職員に十分に認識させる研修の更なる充実を図ることが、今後も必要である。</p>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>1 複式学級の担任になっても、学級経営及び学習指導ができる力量を身に付ける研究を推進する。（平成24年度に複式学級になる可能性がある。）</p> <p>2 特別支援教育の研究を深め、その充実を図る。（ダウン症の児童が入学するとともに、特別支援学級での学習が適切であるという低学年児童、言葉の教室へ通級する児童等々、小規模校であるが、発達上の課題のある児童が多い。また平成24年度には自閉症の児童が入学してくる。）</p> <p>3 道徳や特別活動など、「心の教育」に関する授業の研究を研修の中に位置づけて、豊かな人間性をはぐくむ。</p> <p>4 学校再配置を見据え、環境が変わり新しい集団の中でも気後れせず、たくましく生き抜く力を培うため、校外学習や社会見学を他校とともに実施する方策を模索する。</p> <p>5 個人情報保護や情報機器の適切な取り扱いなど、服務規律の確保についての研修計画を立てて取り組む。</p> <p>6 「田村みまもり隊」や警察などとの連携の下、不審者から児童の安全を守るための防犯訓練を実施し、教職員の危機意識の向上を図る。</p>		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立神野小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
学びあい 認めあい たくましく生きる 神野っ子の育成		○授業研修会を充実させ、学び合いのできる授業づくりを追求した。 △好ましい人間関係を構築し、自分の言葉で豊かに表現する力を育成する。 △最後まで根気強く協力してやり遂げる力を育成する。	1 確かな学力を充実・向上させる。 2 心からつながりがある学級・全校の集団を育てる。 3 自信をもって、児童がチャレンジすることを支援する。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	1 基礎的・基本的な学習内容の習得と言語活動の充実を図る。 2 学習規律の確立を図る。 3 児童が主体的に学ぶ授業づくりを行う。	①ねらいを持った授業を行い、展開を工夫し「聞く・話す・書く」を軸にした活発な授業づくりを進める。 ②チャイムで行動し、聞く・話す態度の指導を行う。 ③評価活動を活発にして、やる気を育てる。	○集中して授業に向かい、考えて意見を述べ、学び合う授業作りが進んだ。 ○チャイムで行動ができ、顔を見て話を聞いたり、相手を意識して発言したりすることができた。 △今後、さらに学校における学習指導と家庭における学習を連携して充実させる。
生徒指導	1 月目標設定による指導を行い、規範意識の醸成を図る。 2 好ましい人間関係を育成する。 3 問題事象の迅速・丁寧な解決を図る。	①児童会に月毎の目標を持たせ、学級での取組を進める。 ②生活目標を設定して、規範意識の醸成を図る。 ③学習や取組の中で、自分の頑張り、他の良さを発見させる場面を設定する。 ④学級指導・保護者対応など速やかに取り組む。	○あいさつの励行・時間を意識する行動等の規範意識が高揚してきた。 ○教員の評価、児童同士の評価活動から、好ましい人間関係が少しずつ作られてきた。 ○児童間のトラブル、事故等の発生時には、事実の把握、保護者への連絡など必要な対処ができた。
健康(体育)・安全	1 健康・体力の増進を図る。 2 安全の確保を図る。 登下校指導の徹底 廊下歩行	①早寝・早起きなどの生活習慣づくり、PTAと連携して進める。②朝マラソン、縄跳びなど継続して取り組む。 ③登下校の見守りの一層の充実を図る。廊下歩行の指導を行う。	○生活習慣づくりの取組によって、児童自らが生活習慣の大切さに気付き始めた。 ○朝マラソン、縄跳びなどを継続して取り組み、改善が図られつつある。 △廊下歩行等に取り組んだが、継続に課題を残した。

開かれた学校づくり	<p>1 情報を適切に保護者に伝える。</p> <p>2 保護者・地域との連携に努める。</p>	<p>①学校だより、学級通信の定期的な発行、取組のお知らせを適宜発行する。</p> <p>②地域への情報発信を行う。</p>	<p>○定期的な学校だより、学級通信などを定期的に発行することに、保護者、地域の方々に本校の教育活動に理解をして頂け、連携に資することができた。</p> <p>△ホームページの更新が定期的にできず、タイムリーに情報提供できなかった。今後、タイムリーに更新をしていきたい。</p>
研修（資質向上の取組）	<p>1 基礎的・基本的な知識・技能の習得させる指導の充実を図る。</p> <p>2 総合的な学習の時間の研究を通して児童が主体的に学習し、探究する力を付ける実践方法を身につける。</p> <p>3 好ましい人間関係のある学級経営の充実を図る。</p>	<p>①研究授業を継続的に進める。</p> <p>②グループ研修会、全教員における研修会を定期的に開催し、お互いの実践から学び合う。</p> <p>③各担任のこだわりのある実践を交流し、お互いに学び合う。</p>	<p>○全教員が、年間1回は、研究授業・公開授業を実施し、実力をつけあうことができた。</p> <p>○1年次の研究発表や各担任の実践をまとめることから、探究的な力として必要なことが明らかになった。</p> <p>○定期的に学級経営の交流会を持ち、お互いに学び合い、自分の実践に取り入れ、全体の学級が落ち着いた状況になった。</p>
特別支援教育	<p>1 校内サポート体制の確立を図り、個の指導に役立てる。</p>	<p>①定期的に会議を開催し、児童実態を明らかにする。</p> <p>②個にあった指導について学習を行い、学力、社会性の向上を図る。</p>	<p>○気になる児童についての指導について組織として検討し、個への指導に生かすことができた。</p> <p>△個別の指導計画等に基づいた指導の充実を図り、学力、社会性の向上を目指す。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>①児童の仲のよい関係を一層育み、一体感を高め、自分たちで課題を解決しあう力を伸ばし、意欲的・チャレンジ精神に満ちあふれる学校を目指したい。</p> <p>②授業づくり、学級づくりの一体化をさらに進め、家庭学習しっかりさせることを結びつけた指導により、学力の一層の向上を図る。</p> <p>③読書習慣の確立に力を入れたい。</p> <p>④児童自らが安全を意識した行動がとれるように指導を積み上げたい。</p> <p>⑤児童を健やかに成長させるために、協働して取り組む教職員集団を作りたい。</p>		

平成22年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立湊小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「自ら学び、心豊かにたくましく生き抜く児童の育成」		<p>○国語科を重点に、児童相互の伝え合う授業づくりを推進し、自分の言葉で伝え合う学びが広がってきた。</p> <p>○伝え合い・認め合い・鍛え合いの「三合い活動」をキーワードに取り組み、学年を超えた児童の関係づくりが進んだ。</p> <p>○発達課題のある児童への指導を丁寧に進める中で、学習や集団への積極的な関わりが見られるようになってきた。</p> <p>△わかる授業づくりと低位の児童を含む学力の全体的な底上げ</p> <p>△学校評価を積極的に生かした学校改善</p>	<p>「一人一人の確かな学力と温かな心を育む学校」</p> <p>1 分かる・出来るが実感出来る授業づくりに努める。</p> <p>2 個のニーズに応じた指導に努め、高まり合う学級・学校の教育活動を進める。</p> <p>3 いじめ・不登校の未然防止及び解消を目指し、機敏で的確な教育活動に努める。</p> <p>4 保護者・地域社会との連携に努め、信頼され開かれた学校づくりを進める。</p>
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<p>(1)基礎・基本を徹底し、確かな学力をつける。</p> <p>(2)個の学習状況に応じた指導内容を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書、朝ドリル、ミナトップ等の補習学習の充実 学力診断テスト等の結果分析及び課題把握、学力検証テスト(DRT)の実施 国語科を中心に、言葉を重視した個々の考えや思いを伝え合う授業づくり実践の充実 「家庭学習の手引き」等を活用した家庭学習の充実 	<p>○朝読書、“湊小全員読書の本”等の取組により、意欲的に読書に親しみ、1校時から学習に向かう姿勢が向上した。</p> <p>○学力課題を共通理解し、授業改善や検証テスト等の取組を通して学力の向上・充実に努められた。</p> <p>○家庭学習を取り組む環境づくりや意欲の向上が図れた。</p> <p>△保護者とより連携した家庭学習の習慣化に努めていく。</p> <p>△複式学級における指導内容の充実に努める。</p>
生徒指導	<p>(3)好ましい人間関係を図ると共に、一人一人の個性を伸ばし、課題に取り組む意欲と実践力を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢活動をもとに、学年を超えた児童の関わりを大切にしたい取組の充実 「音楽フェスティバル」の取組等、全校での取組を学級活動ともつなげた学校行事の充実 「生活見直し週間」の取組を活用した基本的な生活習慣の確立 小中連携や関係機関との連携を踏まえた取組の充実 	<p>○年間を通した様々な異年齢活動により、児童同士の良好な関係が築かれ、学年を超えたつながりが深められた。</p> <p>○全校児童が出演した「音楽フェスティバル」の取組を通して、どの児童も達成感・成就感を体感出来た。</p> <p>○「生活見直し週間」の取組により、児童の基本的な生活習慣の改善につなげることが出来た。</p> <p>△自己肯定感を高め、自信を持って意欲的に行動できる児童の育成に努める。</p> <p>△課題のある児童などの中学校への丁寧な接続に努める。</p>

健康（体育）・安全	(4)自分の心や体を見つめ、より健康で安全に生きようとする児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニ保健指導を活用した体や健康に対する意識の高揚 ・日々の給食指導や栄養教諭を招聘しての食育指導の充実 ・年間を通した体力作り（ランニング、縄跳び等）及び外遊びの奨励 ・見守り隊やPTA、関係機関と連携した安全指導の充実 	<p>○日々の保健指導や保健行事等を通して、児童の体や健康に対する意識が進み、欠席したりする児童が減少した。</p> <p>○毎日の給食や食に関する指導により、食を通じて健康について考えたり感謝したりする気持ちが高まった。</p> <p>○PTA、地域を巻き込んだ安全な登下校の取組が進んだ。</p> <p>△安全点検の徹底を図り、安全に対する意識を高める。</p> <p>△年間を通した体力づくりや外遊びの奨励に努める。</p>
特別支援教育	(5)個の教育的ニーズに応じた課題の克服に努める。 (6)特別支援学級の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・定例的な教育相談部会の開催及び具体的な個別指導計画等を活用した個のニーズに対応する指導の充実 ・交流学級との連携を強め、個別の指導計画に沿った指導による特別支援学級の充実 	<p>○具体的で丁寧な教育相談活動により、個々のニーズに応じた具体的な指導が進んだ。</p> <p>○特別支援学級で学ぶ児童に対する個別の課題を明確にした指導により、児童の成長や保護者理解につながった。</p> <p>△特別支援学級入級に係る丁寧な指導及び保護者啓発に努める。また、日々の指導に生かせる個別の指導計画、支援計画等の内容充実に努める。</p>
研修（教員の資質向上）	(7)国語科を重点教科に、授業実践力の向上に努める。 (8)教員としての資質能力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の研究授業をもとに言葉を重視した豊かな伝え合いを目指す授業づくりの推進 ・外部講師を活用した“授業づくり”の研修充実 ・新学習指導要領の本格実施を見据えた各教科・道徳等の指導内容及び新しい教科書についての研修 	<p>○すべての学級が研究授業を実施し、豊かな伝え合いを目指す授業づくりについて、研修を深めることが出来た。</p> <p>○北部研修所の出前授業等も活用し、全体の指導力向上につながる校内研修の充実が図られた。</p> <p>○新学習指導要領の本格実施に向けて、新しい教科書の内容や外国語活動の指導に係る研修が取り組めた。</p>
開かれた学校づくり	(9)保護者・地域との連携を深め、信頼される学校づくりに努める。 (10)積極的な情報発信に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者との定例的な懇談会の開催及び教育活動の説明 ・地域の自然、文化等を生かした地域学習の取組充実 ・たよりやHPなどを活用した教育活動の保護者・地域への発信 	<p>○保護者への学校公開や学校関係者との懇談会を定例的に持ち、学校の取組についての理解・協力が進んだ。</p> <p>○地域とつながった学習で様々な学んだことをたよりやHP等で積極的に発信し、児童の頑張る姿を広く伝えることが出来た。</p> <p>△学校関係者等の評価を教育活動により反映させていく。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業づくり、学級づくりを柱に据え、研究・実践と児童の学力の充実・向上とを一体化させた取組内容の充実に努めていく。 2 全校での異年齢活動や学級活動を多様に仕組み、一人一人の自己肯定感を高めながら、児童の関係づくりをより一層確かなものにしていく。 3 学校評価を踏まえ、評価内容の見直しや改善事項の具体化により、積極的な学校改善につなげていく。 		